



平成24年度

秋田大学地域創生センター年報

Center for Regional Development



目次 contents

秋田大学地域創生センターの概要	2
-----------------------	---

平成24年度の活動実績

1. 地域協働部門

地域協働部門長あいさつ

秋田大学地域創生センター教授・地域協働部門長 松岡 昌則	4
1. 1 公開講座	5
1. 2 横手分校	9
1. 3 北秋田分校	13
1. 4 自治体連携関係	19
1. 5 大学訪問受入	23
1. 6 地域創生センター主催	33
1. 7 他部局主催（年度計画推進経費による）	37
1. 8 その他	44

2. 地域防災部門

地域防災部門長あいさつ

秋田大学地域創生センター准教授・地域防災部門長 水田 敏彦	46
2. 1 秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査研究	47
2. 2 防災について地域で活動できる人材の育成	50
2. 3 県及び市町村への防災施策に関する指導助言	63

参考資料

平成24年度事業実施状況一覧	68
地域創生センター運営委員・地域創生課職員一覧	72
社会貢献事業で御協力いただいた学内教職員の方々	73
平成24年度社会貢献事業ポスター（一部）	75

地域創生センター概要

■設置目的

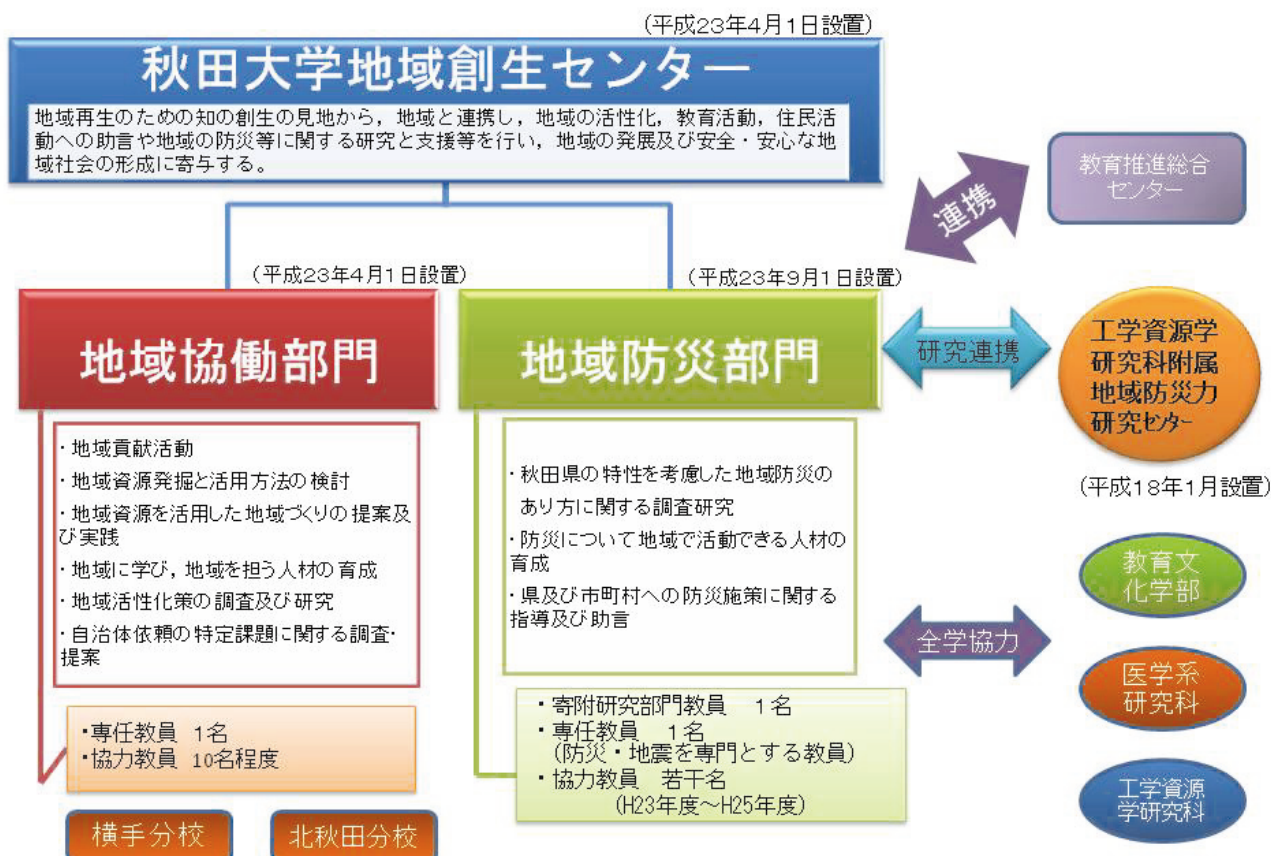
本センターは、地域と連携し、地域の活性化、教育活動、住民活動への助言等を行い、地域資源の発掘、地域づくりを担う人材の育成等を行うことを目的として設置が検討され、以下の沿革に示すとおり平成23年4月に設置された新しい組織である。

本センターは、秋田大学の社会貢献活動の拠点となるとともに、同年9月には地域防災部門を設置し、地域貢献・地域連携に止まらず、地域防災に関する人材育成や自治体の防災施策に関する指導・助言を行うことも目的としている。

■沿革

平成23年 2月	教育研究評議会において学内措置としてセンターの設置が了承
平成23年 4月	センター発足 地域協働部門に専任教員（教授）1名採用 大学本部棟に地域創生課を置き、センター長（兼任）、副センター長（地域協働部門専任教員）の体制でスタート
平成23年 9月	秋田県からの寄附を原資として地域防災部門が設置され、専任教員（准教授）1名採用 VBL内に研究室を借用
平成23年 10月	地域防災部門に専任教員（准教授）1名採用 VBL内に研究室を借用
平成24年 7月	地域防災部門の研究室を教育文化学部3号館111室に移動

秋田大学地域創生センター組織図



地域協働部門

地域協働部門長あいさつ

地域創生センター 副センター長
地域創生センター地域協働部門長・教授
松岡 昌則

地域創生センター・地域協働部門の活動の柱に地域の活性化への貢献がある。その目標は、現在の地域社会を住民の協住と定住の空間として再構築することであり、その実践である。そこでは地域産業の衰退、少子高齢化、コミュニティ機能の減退、行政サービスの後退、共同消費手段の消失等、暮らしにくさが増大し、地域社会が沈滞・疲弊していく状況に対して、地域のなかで安心して暮らせるしくみを創るための生活の維持と向上が求められる。そしてそのためには、将来どのような地域を創出するべきか、またすることができるかを、如何に具体的に提起することが求められる。分断され続ける個人や個々の家族にとって、安心して暮らし続けるために、自分たちで解決しなければならない生活課題がますます増大するなかで、それらへの対応のしくみが模索される必要がある。

こうした状況のなか、今日、各地で地域づくりの取り組みが行われている。そこでは農業を中心とした地域産業の振興ないし6次産業化、リコミュニティ活動の活性化、交流人口の増大、行政と地域住民とのコラボレーション等、地域生活の持続的発展に向けた取り組みが報告されている。しかし一方で、旧来の社会関係の紐帯や地域の構造的硬さのために、地域を動かす原動力として、外からの力の必要や期待も指摘される。新規参入者、まちづくり協力隊、集落支援員等である。しかし新規参入者に散見される地域再生の試みの成功事例以外は、ほとんど地域に埋没している例が多い。

大学が地域の活性化に関わるのは、まさに第三者としての立場である。地域が自立的に自分たちの地域を再構築するためには、住民の地域課題解決への意欲、合意、そして実践がなければならない。そして大学は第三者として、新たな生活の展望と提案、合意形成、地域運動への誘いをつくることが求められているように感じている。

そのためには、大学が取りうる方法として、①住民による地域再生のプロジェクトの立ち上げと実践を、住民との協働で行うことによって、地域の実情に応じた再生のプロセスのモデルを構築する。そして実践の対象として、地域に新たな動きをつくる、②地域資源を活用した地域産業の振興、集落機能の持続的な補完システム、新たなコミュニティ活動の形成、住民組織の再編成が如何にして可能かを提示することによって、新たな地域社会の構築に貢献する、等のことが考えられる。いわば大学は、外部者（中間者）の役割を果たすことによって、意欲の結集をはかり、より組織的にまた効率的に地域の再生に寄与することができると思う。

地域の再生のために有効な資源は社会関係資本を含めて多くある。村落や地区の諸集団と種々の社会関係、そして生活補完システムの存在等が、相互に有機的に構造化することによって、多くの手法が考えられるであろう。

いずれにしても、今日の大学は新たな社会形成に向けての理念の構築とそれに対する実践力が問われているといえよう。

1. 1 公開講座

開 講 数 : 8 講 座

総受講者数 : 304名



●事業内容

地域に開かれた大学づくりの一環として、秋田大学の持つ教育資源を広く市井に向けて提供することを目的に実施している。

●事業成果と課題

内容は語学から実習製作まで様々であり、いずれも好評を得た。受講者にはリピーターも多く、ある程度本事業の存在が定着してきていると考えられる。

今後は、講座の内容（難易度、対象者等）に対する問い合わせが多く寄せられたことがあるため、広報用チラシによる周知の内容・方法を、より工夫していく必要がある。

実施講座

(1) がんばろう東北！～秋田の演奏家による楽しい音楽会～



実 施 日 平成24年5月13日（日） ※第2、3回は中止

会 場 秋田大学60周年記念ホール

担当講師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座

准教授 齋藤洋

受講者数 147名（第1回）

東日本大震災の復興支援を目的として、秋田県内の演奏家によるチャリティーコンサートを開催した。

(2) 英語の詩を読んでみませんか？ —対訳で味わう英詩の世界と英国文化Ⅱ—

実 施 日 平成24年6月29日（金）～7月27日（金）

毎週金曜日 計5日間

会 場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学教育文化学部欧米文化講座 准教授 大西洋一

受講者数 16名

19世紀以降の英詩を対訳で読みながら、詩が書かれた当時のイギリスの社会状況や文化について学ぶことを目的に実施した。



(3) 大人のものづくり

実施日 平成24年8月30日(木)～10月4日(木)

毎週木曜日 計6日間

会場 秋田大学工学資源学部

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科附属

ものづくり創造工学センター

教授 神谷修

助教 和田豊

秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻 教授 長縄明大

秋田大学大学院工学資源学研究科技術部 生産・建築工学系 技術職員

受講者数 11名

機械工作の経験はほとんど無いが、機械工作や電子工作に興味のある大人を主な対象として、講義と実習を行い、その楽しさを体験してもらう事を目的に実施した。



(4) 長唄の魅力味わう



実施日 平成24年9月2日(日)～9月29日(土)

毎週日曜日(第4回のみ土曜日) 計4日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学音楽教育講座 准教授 武内恵美子

受講者数 49名

三味線音楽の中でも人気のあるジャンルでありながら、秋田ではなかなか触れる機会がない長唄について学ぶ事を目的に開催した。

(5) 総合自殺予防学インテンシブコース ～地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進～

実施日 平成24年10月5日(金)～11月2日(金)

毎週金曜日 計4日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 筑波大学大学院人間総合科学研究科国際ケア研究室

教授 安梅勅江

東京大学大学院医学研究科健康科学・看護学専攻

健康科学大講座精神保健分野 教授 川上憲人

秋田大学理事・副学長 本橋豊

秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻基礎看護学講座 准教授 佐々木久長

筑波大学大学院人間総合科学研究科精神病態学分野 朝田隆

受講者数 18名

地域の現場で自殺対策に取り組む、保健師や行政担当者、ボランティア等を対象として、毎年継続的に開講している講座である。



(6) 文化の中のインドネシア語



実施日 平成24年10月14日(日)～11月3日(土)

毎週日曜日(第4回のみ土曜日)計4日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学教育文化学部国際コミュニケーション講座

教授 三宅良美

受講者数 17名

インドネシア語を学ぶとともにバリ、ジャワに代表される舞踊、演劇、映画を紹介し、「改革後」の新しいインドネシアに触れることを目的に実施した。

(7) 睡眠について —保健学の視点から—

実施日 平成24年11月7日(水)～11月28日(水)

毎週水曜日 計4日間

会場 カレッジプラザ

担当講師 秋田大学医学系研究科保健学専攻

母子看護学講座 教授 兒玉英也

作業療法学講座 教授 新山喜嗣

地域・老年看護学講座 講師 長岡真希子

理学療法学講座 助教 上村佐知子

受講者数 28名



健康と密接に関係があり、多くの人が悩みを抱えている「睡眠」について、医師の観点、看護師の立場、臨床心理士の視点から解説した。

(8) 声楽講座 — 発声法と歌唱法 —

実施日 平成25年3月3日(日)～3月24日(日)

毎週日曜日 計4日間

会場 秋田大学インフォメーションセンター

担当講師 秋田大学教育文化学部音楽教育講座

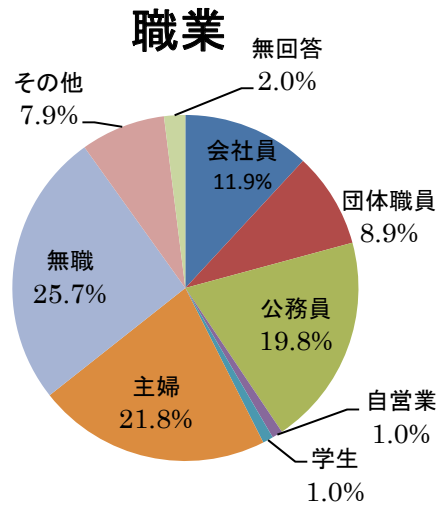
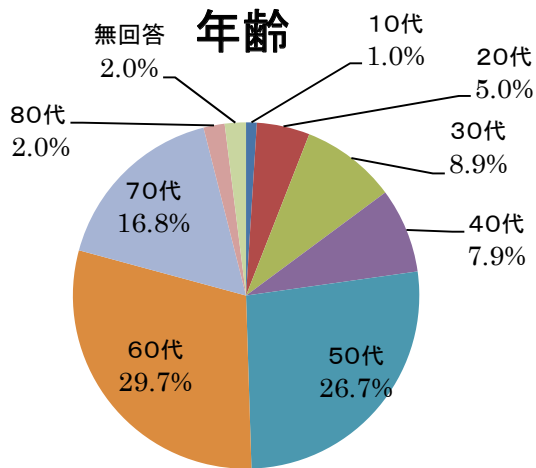
准教授 爲我井壽一

受講者数 18名

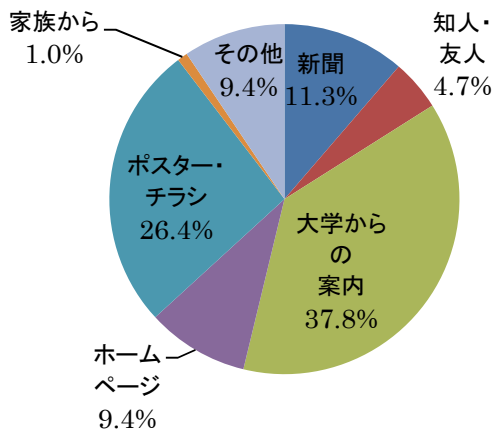


基礎的な発声法や歌唱法の学習を通して、歌う喜びや楽しさを感じ、声楽に親しむことを目的に開催した。

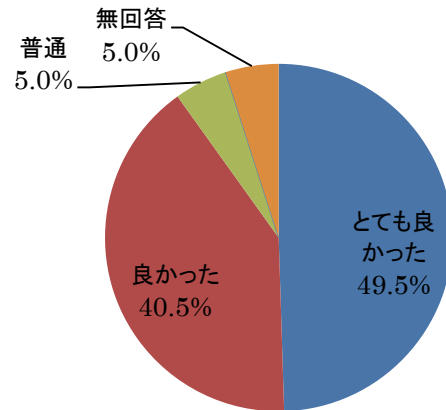
公開講座 アンケート集計結果



何で知ったか



内容・方法



公開講座総受講者数 152名
アンケート回答者数 101名
(回収率66.4%)

■受講者の声（抜粋）

- ・インドネシア語だけでなく、歴史や文化など様々なことを学ぶことができ、本当に楽しかったです。インターネットや自分で調べて学ぶより、講座で学ぶ方がとってもしっかりと楽しかったです。 「文化の中のインドネシア語」より
- ・運動、栄養、睡眠について学ぶことができ、たいへんよかったです。ここで学習したことを、周囲に広げていきたい。 「睡眠について - 保健学の視点から -」より
- ・毎回とても楽しくてあっという間に終わってしまったような気がします。もっと長く期間をとってもらえれば、受講した方々と交流も持てるので、ぜひお願いしたいです。 「声楽講座 - 発声法と歌唱法 -」より

■アンケート分析

受講者の年代は60代以上が半数を占め、職業も公務員や無職が多いことから、ある程度安定して時間が取れる方の受講が多いことが分かる。

何で知ったかという質問では、「大学からの案内」が3割以上を占めているが、これは過去受講者を示しているため、3人に1人はリピーターであるということになる。

内容・方法については肯定的評価がほとんどを占めている。受講者の声（自由記述）を見ると、「興味が増した」、「楽しかった」といった感想が多く聞かれた一方、「開催期間が短い」、「一つの講座を、年間を通して定期的に開催してほしい」など、実施形態そのものに関わる意見も散見されたため、今後はそのような実施の手法も検討していく必要がある。

1. 2 横手分校

分 校 長：根岸均

事業実施数：5件



●事業内容

横手分校は、秋田大学と横手市が平成21年2月7日に連携協定を結んだことをきっかけに、秋田大学のもつ資源を開放し、各自治体や企業からの要望を受け入れる窓口となるべく開設された。

横手市交流センターY²プラザ内を拠点とし、根岸均分校長および事務職員1名が業務を担当している。

教員が出向いての講演会や科学教室の開催、秋田大学生と住民との地域交流事業など、県南地域活性化の拠点として機能している。

●事業成果と課題

「いぶりばでい」をはじめ、横手分校の存在は浸透してきている。ただし、まだまだ横手市内の活動に留まっているため、県南地区全体の拠点として、さらに活動を広げていきたい。

実施事業

(1) 山内三又地区交流事業「大山祇(おおやまずみ)神社祭」参加とわらび園野焼き体験

実施日 平成24年5月12日(土)～14日(月)

会場 横手市山内三又地区

いぶりがっこ作りで交流のある横手市山内三又地区において、地域のアイデンティティを象徴する伝統行事に学生が参加・協力することで地域に活気を創出するとともに、地域住民との交流の中で学生の社会力育成と地域の生活への理解を深めることを目的に実施した。

12日(土)に開催された伝統行事「大山祇(おおやまずみ)神社祭」では、学生が地域の方から祭りで歌われる唄やしきたりなどの手ほどきを受け、「ジョヤサ!ジョヤサ!」のかけ声と共に地区内を練り歩いた。高齢化の進行などにより本格的に行われるのは約5年ぶりであり、地域住民からは「人が多いと雰囲気が違う」「若い人が多いせいか住民の参加も多い」という声が聞かれ、祭りを大いに盛り上げた。

また13日(日)には、講義の一環として地元の方へインタビューを行い、地域の抱える課題などについて話し合いを行い、14日(月)には三又観光わらび園において開園に向けて行われた野焼き(火入れ)作業に参加した。参加した学生たちは、地域の祭、住民との話し合いなどを通して、山内三又地区のあたたかさに触れると共に、地域が抱える問題について考える機会となったようだった。



≫横手分校

(2) メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（横手分校主催回）

「健康長寿社会のために—あなどれない高血圧：高血圧管理と運動—」

実施日 平成24年10月17日（水）

会場 横手市交流センターY²ぷらざ 市民活動スペース

担当講師 秋田大学大学院医学系研究科 研究科長 澤田賢一

秋田大学医学部附属病院循環器内科 講師 小坂俊光

秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座 教授 高崎裕治

参加者 111名

医学系研究科の主催で過去15回行われてきた「メディカル・サイエンスカフェ」に新たな視点を加え次の段階へ踏み出すという趣旨のもと、教育文化学部の教員と連携し実施した。高血圧をテーマに、サイエンスカフェ・マスターの進行のもと、小坂講師が「生活習慣の修正による高血圧管理」、高崎教授が「健康長寿と運動」と題しそれぞれ講演した。質疑応答では、サイエンスカフェ・マスターの軽妙な語り口による進行によって会場は打ち解けた雰囲気のもと、活発な意見交換の時間となった。



(3) 中学生向け科学教室「カラフル・ケミストリー —色と化学の不思議な関係—」

実施日 平成25年1月8日（火）

会場 秋田県立横手高等学校「青雲館」

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科環境応用化学専攻 講師 井上幸彦

参加者 17名



県南の中学生を対象に、色と光に関する化学反応を楽しむことにより、化学や科学技術そのものに興味を持たせ、理科離れの対策に繋げることを目的として実施した。参加者は光の色と物体の色についての解説に耳を傾けながら炎色反応などの実験を見学、教室の後半には蛍光色素を作る実験に挑戦し、参加した生徒たちは科学の面白さを実感したようだった。

(4) 平成24年度大学生・高校生教職体験プログラム「教育ミニミニ実習」

実施日 平成24年12月26日(水)～12月28日(金)

平成25年1月9日(水)～1月10日(木)

会場 横手市立横手南中学校

参加者 横手・湯沢市内高校生16名

秋田大学生4名

教員を目指す大学生・高校生と中学生との交流の場を設定し、自己の適性を知ることによって学びのモチベーションを高め、優れた教師育成の一助にすることを目的に、前年度に引き続き横手市立横手南中学校の協力を得て実施した。実習生は5日間の実習の間、学習指導補助、部活動指導補助、保護者との懇談会、1人40分の実習授業など幅広く業務を体験した。実習生からは、生徒に合わせた授業進行の難しさや、教師に求められる人間性についての感想が述べられ、実り多い実習となったようだった。



(5) 学生地域交流事業「秋田大学オフィシャルいぶりがっこ『いぶりばでい』づくり」

平成21～23年度の3年間で終了した「秋田大学オフィシャルいぶりがっこ製造プロジェクト」の中で生まれた、本学オリジナルのいぶりがっこ「いぶりばでい」のブランドを引き継ぐため、平成24年度は作業の都度、有志の学生を募って活動した。

平成24年11月の大根漬け込み作業から活動を開始し、いぶりがっこの製造から県内スーパーのバイヤーへのあいさつと、販売にいたるまでの一連の流れを体験した。

平成25年2月に行われた樽開け作業には3学部全てから学生の参加があり、学部を越えて学生同士が交流する様子が見られるなど、研究室単位で活動していたプロジェクト時とはまた違った、新たな活動の形を見ることができた。

H24年 11月11日 燻し小屋から取り出した大根の洗浄、漬け込み

H25年 2月 3日 樽開け

2月23日 県内スーパーへ販売のあいさつ

2月24日 「チームプラスY」優良取組者賞受賞

2月26日 製品出荷準備作業

2月28日 学内先行販売開始(3月6日まで)

3月 7日 県内スーパーで販売開始

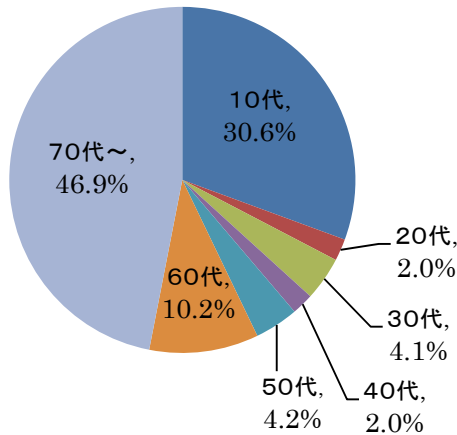
店頭で来店者に向け活動をアピール

3月16日 NPO法人「スローフードジャパン」主催の全国大会へブース出展

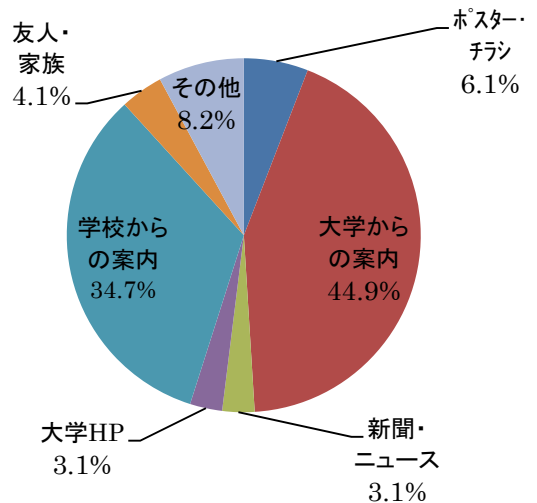


メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（横手分校主催）
アンケート集計結果

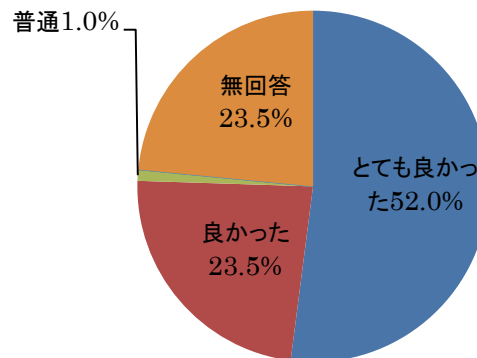
年齢



何で知ったか



感想



参加者数 111名
アンケート回答者数 98名
(回収率88.3%)

参加者の声（抜粋）

- ・「運動の大切さ」「タバコは1本で5分30秒の寿命を縮める」ということは貴重なお話でした。職場のみんなにも話したいと思います。
- ・カフェマスターも講師の先生方もユーモアたっぷりとても楽しく拝聴しました。高校生達も参加して良い事だと思いました。
- ・高血圧を根本的なところから知ることができ、興味がわきました。将来は医療系の職業を考えているので、これからも医療についての様々なことの理解を深めていきたいです。

アンケート分析

高血圧というテーマもあってか、身体の健康に意識の高い高齢の方の参加が多かった。その一方で、看護に興味があるなどの理由から、約30名の高校生の参加があったことは大変喜ばしいことであり、高齢の方にとっても刺激となったようである。

参加の感想は概ね肯定的意見であったが、中には「レジュメが欲しかった」、「スクリーンの文字が見えづらい」など改善を求める声もあったため、今後同様の事業を行う際に参考としたい。

1. 3 北秋田分校

分 校 長：濱田純

事業実施数：10件



●事業内容

北秋田分校は、秋田大学と北秋田市の連携協定の中で示された3つの柱「①北秋田市の豊富な地下資源を活用した産業振興、②地域を支える人材育成、③地域住民の健康増進」を達成する拠点として、平成22年11月17日に開設された。

珪藻土を始めとする自然資源や、それらを活かした観光資源の発掘など、地域住民と連携を図りながら活動を進めている。

●事業成果と課題

北秋田分校教養セミナーと子ども向けの科学教室をそれぞれ2回行ったほか、学生が地域に入り込んでの交流事業など、活発に各種事業を実施した。

地域での交流活動については、単発に終わることなく、今後も複数回にわたり継続的に入り込んでいくことで、よりその土地に根を張った活動を推進していきたい。

実施事業

(1) 地域交流事業「田んぼアート」参加

主 催 秋田県北秋田地域振興局

共 催 秋田大学北秋田分校、秋田北鷹高等学校、北秋田市 他

本事業は行政（県・市）、地元J A、秋田内陸縦貫鉄道、地域住民が一緒になって観賞用品種の稲を使った「田んぼアート」に取り組むことで、地域住民の繋がりを育むとともに観光客が訪れたいくなる景観をつくり、秋田内陸縦貫鉄道の集客をアップすることを目的として北秋田地域振興局が主催した。北秋田分校が協力して学生と教職員が参加し、田植えと稲刈りを行った。

①田植え参加

実施日 平成24年5月26日（土）

会 場 北秋田市小又字平里地区

参加者 秋田大学生6名、ノースアジア大学生5名
秋田大学教職員4名

②稲刈り参加

実施日 平成24年10月14日（日）

会 場 北秋田市小又字平里地区

参加者 秋田大学生4名、教職員2名



(2) 第50回「阿仁の花火大会と灯籠流し」記念アトラクション
秋田大学よさこいサークル「よさとせ歌舞輝」参加

実施日 平成24年8月16日(木)
会場 北秋田市阿仁総合窓口センター前
主催 阿仁の花火実行委員会
後援 秋田大学北秋田分校



北秋田市阿仁の盆行事「阿仁の花火大会と灯籠流し」を盛り上げるために、北秋田分校の後援事業として、秋田大学よさこいサークル「よさとせ歌舞輝」が記念アトラクションに出演した。この記念アトラクションは、「阿仁の花火大会と灯籠流し」が今年で第50回目の記念大会を迎えることから、花火大会に合わせて開催された。あいにくの雨となったが、参加した「よさとせ歌舞輝」のオリジナル曲「神剛(かみがた)」、「燦(さん)」の力強い演舞が大会を盛り上げた。

(3) 第1回 平成24年度秋田大学北秋田分校教養セミナー
「ブータン王国から学ぶこと～真の幸せとは～」

実施日 平成24年9月20日(木)
会場 北秋田市文化会館
担当講師 秋田大学国際交流センター 准教授 西田文信
参加者数 約200名
共催 秋田大学北秋田分校、北秋田市教育委員会



第1回は北秋田市の高齢者大学である高鷹大学の全体講義を兼ねて開催した。「ブータン王国から学ぶこと～真の幸せとは～」をテーマに、国民総幸福量(GNH)という独自の考え方が世界中から注目を集めているブータン王国の歴史や文化、政策、日本との関わりなどについて解説した。講師が現地でも撮影した写真や映像を交えての講演に、参加者はブータンに住む人々の生活を身近に感じたようだった。

(4) 第2回 平成24年度秋田大学北秋田分校教養セミナー
「秋田のことば—老人(シニア)と若者の—」

実施日 平成24年11月21日(水)
会場 秋田北鷹高等学校大講堂
担当講師 秋田大学教育文化学部日本・アジア文化選修
特別教授 佐藤稔
参加者数 130名
共催 秋田大学北秋田分校、北秋田市教育委員会、秋田北鷹高等学校



秋田のことばの現状、特にシニア世代と若者のことばをテーマに、単語を書いたプラカードで秋田弁やキーワードを紹介しながら、若い世代の言葉遣いとその背景、方言が果たす文化的な役割について解説した。参加者からは「方言でなければ的確に表現できないことが数多くあるので大事にしたい」「孫たちにも方言のよさを伝えられるようにしたい」といった声が聞かれ、方言の良さや役割について見直す機会となったようだった。

(5) 北秋田市こども科学教室「おもしろ理科実験 サイエンススクール」

実施日 平成24年10月27日(土)
 会場 北秋田市立鷹巣中学校体育館
 担当講師 秋田大学工学資源学研究科環境応用化学専攻
 教授 中田真一
 准教授 加藤純雄
 助教 小笠原正剛
 エコ・エネ・リサーチ
 特別講師 野村正幸
 特別講師 井原博之
 秋田大学生20名



参加者数 約400名

身の回りにあふれている科学と触れあい、体験することで科学への興味を深めてもらおうと、秋田大学北秋田分校と北秋田市教育委員会の共催で実施した。当日、会場の鷹巣中学校では小中学校理科社会科研究発表会が開催されており、その発表会に参加した市内の小中学生とその保護者など約400名が参加。電気やエコ、温度や珪藻土をテーマにした4つのコーナーが設けられ、参加者は興味のあるブースを自由に行き来し、実験を楽しんだ。

(6) 大館・北秋田理科研究発表会「わくわく子ども科学教室」



実施日 平成24年11月18日(日)
 会場 大館市立有浦小学校
 担当講師 秋田大学工学資源学研究科環境応用化学専攻
 教授 中田真一
 准教授 加藤純雄
 助教 小笠原正剛
 エコ・エネ・リサーチ
 特別講師 野村正幸
 特別講師 井原博之
 秋田大学生20名

参加者 約300名

科学に触れあい、実際に体験することで科学への興味をより深め、今後の科学・理科教育への動機づけとすることを目的に秋田大学北秋田分校と大館・北秋田理科教育研究会との共催で実施した。同日行われた児童生徒理科研究発表会の終了後に開催し、発表会に参加した大館市・北秋田市内の小学生とその保護者約300名が会場を訪れた。教員と学生らが風力発電や燃料電池などの「エコ」をテーマとした展示や、重曹と酢を反応させて二酸化炭素を発生させる実験などを披露し、好評を得た。

(7) メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（北秋田分校主催回）

「健康長寿社会のために—あなどれない高血圧：高血圧管理と運動—」



実施日 平成24年11月21日（水）

会場 秋田北鷹高等学校大講堂

担当講師 秋田大学大学院医学系研究科 副研究科長 杉山俊博

秋田大学医学部附属病院循環器内科 講師 小坂俊光

秋田大学教育文化学部スポーツ・健康教育講座

教授 高崎裕治

参加者 190名

10月に横手分校主催で行われた同イベントの第2回目として、北秋田分校主催により「健康長寿社会のために—あなどれない高血圧：高血圧管理と運動—」をテーマに実施した。一般市民だけでなく、会場となった秋田北鷹高等学校の生徒も来場し、約190名が参加した。講師らは、高血圧についての基礎知識や高血圧の合併症、食生活や健康長寿に繋がる運動の効用について解説。その後行われた質疑応答では、多くの質問が寄せられ、自分自身や家族の健康について見直す機会となったようだった。

(8) 平成24年度北秋田市チョコボラ・プロジェクト

第2回「ふるさとの未来・再考！」フォーラム参加

実施日 平成24年12月1日（土）

会場 北秋田市交流センター

参加者 秋田大学北秋田分校長 濱田純

秋田大学工学資源学部環境応用化学科 3年次 伊藤晴樹

地域の「食」と秋田内陸縦貫鉄道を活用した地域課題解決を目的として、北秋田市教育委員会主催、北秋田市、秋田大学北秋田分校の共催で開催した。当日はパネルディスカッションと事例発表が行われ、パネルディスカッションに濱田分校長がコーディネーターとして、秋田大学工学資源学部3年次の伊藤晴樹さんがパネリストとして参加した。地域の「食」を活かした取り組みや活動報告・秋田内陸縦貫鉄道の取り組みについて他の参加者と議論を交わし、市民とともに地域の「食」と内陸縦貫鉄道を絡めた地域活性化について考える機会となった。



(9) スノーキャンドルストリート in あに

実施日 平成24年度2月23日(土)～24日(日)

会場 北秋田市阿仁水無銀山地区

参加者 秋田大学北秋田分校長 濱田純

秋田大学生 12名

主催 スノーキャンドルストリート実行委員会 他

後援 秋田大学北秋田分校 他

今年で8回目の開催となる「スノーキャンドルストリート in あに」は、地域の資源である「雪」と各家庭にあるろうそくを活用し、ミニかまくらの中にろうそくを飾り付けた「スノーキャンドル」で地区内をつなぐ地域住民参加型のイベントである。このイベントを秋田大学北秋田分校が後援し、秋田大学生が準備から参加、地域住民らとともに盛り上げた。



(10) 秋田北鷹-BMプロジェクト



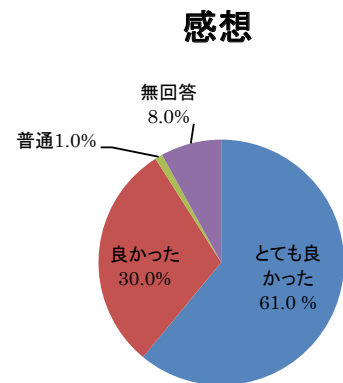
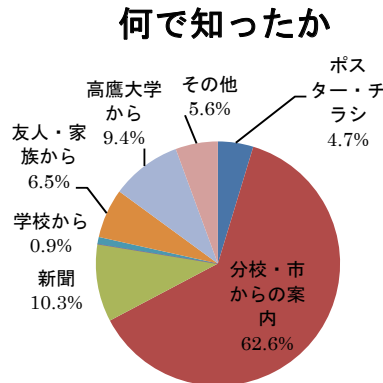
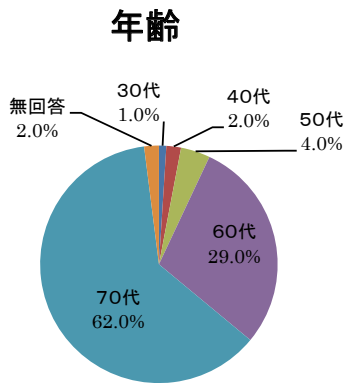
北秋田市で30年以上前から家庭のおやつとして親しまれてきたバター餅は、現在、地域の新たな特産品として注目を集め人気となっている。

この「バター餅」について研究活動や体験学習を通して商品開発を行うことを目的に、秋田県立秋田北鷹高等学校家庭クラブ、北秋田市教育委員会、秋田大学北秋田分校が連携して「秋田北鷹-BMプロジェクト」を立ち上げ、6月には、第1回プロジェクト会議を開催した。

活動は秋田北鷹高等学校家庭クラブが主体となって実施、保存性・安全性の検証、副材料の検討を行い、「醤油バター餅」という新たなレシピを開発した。今後は、具体的な製品化に向けての取り組みを実施していく。

第2回秋田大学北秋田分校教養セミナー

「秋田のことば —老人（シニア）と若者の—」アンケート集計結果



参加者数 130名
アンケート回答者数 100名
(回収率76.9%)

参加者の声（抜粋）

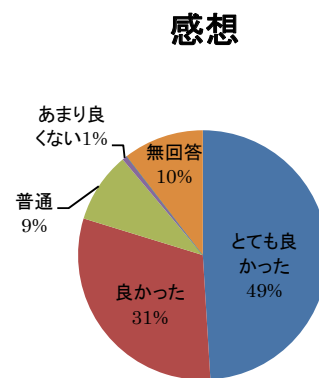
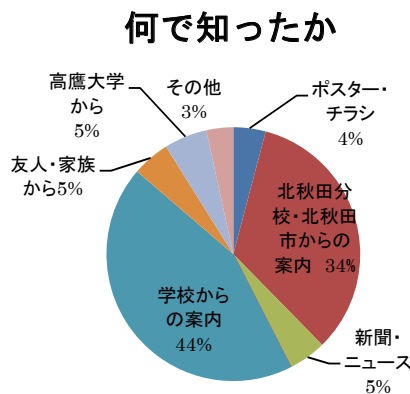
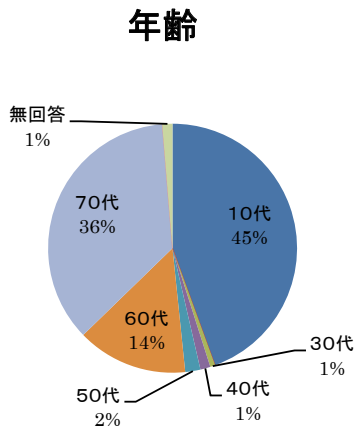
- ・暫くぶりに郷里へ帰ったような気分になりました。孫たちとの話の中に方言を入れて語ることがありますが殆ど通じません。改めて方言の大切さを感じとらせて頂きました。
- ・方言って、本当に楽しかったです。全然わからないことばかりでした。これから、若い人達と勉強したいです。

アンケート分析

参加者はほとんどが高齢の方であり、方言という身近なテーマもあってか、評価も高い水準を示した。

「何で知ったか」の項目では、「秋田大学ホームページ」という回答はゼロで、代わりに「新聞」が10%以上の値を示したことから、高齢の方においては、電子媒体よりも、新聞がいまだに主たる情報源であることが分かる。

メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト（北秋田分校主催）アンケート集計結果



参加者数 190名
アンケート回答者数 153名
(回収率80.5%)

参加者の声（抜粋）

- ・沢山の質問が参考になりました。
- ・私はまだまだ若いので高血圧について考えたことはなかったのですが、今回の講話で高血圧について深く知ることができた気がします。とてもよい講話でまた受けたいと思いました。

アンケート分析

会場が高等学校内であったことから、多くの高校生の参加があり、そのほとんどが学校側からの案内により開催を知ったことが分かる。

自由記述の感想欄において、進行の早さを指摘する声が多く見受けられたため、時間に制限がある中でも、分かりやすく余裕を持った説明を心がける必要があると感じる。

1. 4 自治体連携関係

事業を実施した自治体数：4自治体
(男鹿市、湯沢市、潟上市、美郷町)



●事業内容

秋田大学は「地域に根ざした大学」を目指し、連携協定を結ぶ県内の自治体において、様々な社会貢献活動を展開している。

●事業成果と課題

平成24年度11月20日に湯沢市と連携協定を結んだことにより、県内自治体との連携協定数は計13となった(県も含む)。

これからは、教員や学生が地域に入り込むことにより住民の意識を刺激することはもちろん、学生にとっても地域の現状を理解し、問題意識を持つための教育的機会となるようなプログラムづくりを行っていきたい。

実施事業

(1) 男鹿市加茂青砂地区交流事業「かもあおさで鯛まつり」

実施日 平成24年5月26日(土)

会場 男鹿市戸賀加茂青砂地区 かもあおさ笑楽校

参加者 秋田大学教育文化学部生活者科学選修 教授 長沼誠子

秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則

秋田大学生5名

地域住民24名



地域課題の解決に向けて住民の話し合いの場を作るとともに、男鹿市で行われている名物行事「鯛まつり」に因んだ地域食材を活かした地域活性化を目指すこと、また、学生が参加することで地域への理解を深めることを目的に実施した。

当日は地域住民24名が参加し、学生と教職員が準備した鯛飯や寿司、潮汁を食べながら歓談した。参加した地元の方からは「昔の『結』のような助け合いの心を思い出した」「若い人たちと話せてよかったので、またこのような機会がほしい」といった声が聞かれた。

(2) 美郷町連携事業「水のコンサート」



実施日 平成24年10月4日(木)
会場 美郷町立美郷中学校
担当 秋田大学教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一
秋田大学教育文化学部音楽教育学講座 学生25名

秋田大学と美郷町との「水」をキーワードとした連携協定の連携事業の一環として、美郷中学校の校内合唱祭へ特別ゲストとして参加し、「水のコンサート」を開催した。学生合唱団25名が様々なジャンル

から選んだ6曲を演奏した。最後の2曲は美郷町民歌および美郷中学校歌が選曲され、秋田大学合唱団の他、美郷中学校の生徒や保護者、教諭など会場にいた全員で合唱した。

(3) 潟上市連携協定記念イベント

パネルディスカッション「みんなで考えよう潟上市のまちづくり」

実施日 平成24年10月21日(日)
会場 潟上市天王公民館
担当 秋田大学 副学長 池村好道
秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
参加者 約300名

平成24年2月の連携協定締結と同年6月の潟上市自治基本条例の制定を記念した事業としてパネルディスカッションを開催。秋田大学からは、条例策定委員会アドバイザーとして携わった池村副学長がパネリストとして、松岡副センター長がコーディネーターとして参加した。市の文化祭に合わせて開催され、多くの市民が聴講し、自治基本条例について理解を深める機会となった。



(4) 平成24年度秋田県内三大学連携事業「留学生とおしゃべり Cooking in 男鹿」

実施日 平成24年11月17日(土) (秋田県立大学、国際教養大学との連携事業)
会場 男鹿市脇本公民館
主催 秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学
共催 男鹿市
参加者 16名(児童11名、保護者5名)

平成21年度に秋田県立大学、国際教養大学と連携協定を締結したことをきっかけに「三大学連携事業」として実施している。県内の三大学が連携して大学の研究内容を紹介し、大学に対する市民の理解を深めること及び地域社会への貢献を目的に、4回目となる平成24年度は、留学生による異文化交流事業を実施。中国・ベトナム・フランス・モロッコの留学生が、参加者とともに会話を楽しみながら伝統料理を調理、試食し、交流を深めた。



(5) 秋田大学と湯沢市との連携協定締結式及び記念講演会

実施日 平成24年11月20日(火)

会場 湯沢ロイヤルホテル レインボーホール

担当講師 秋田大学教育文化学部自然環境講座 教授 林信太郎

湯沢市におけるジオパーク構想推進に向けた調査・研究や学生力の活用による地域振興、湯沢市の特性に応じた防災・減災対策について連携協力することを目的に、湯沢市と連携協定を締結した。同時に、協定締結を記念して「楽しく育てるジオパークー湯沢市民のためのジオの知恵袋」と題し、林信太郎教授による講演会を開催。世界や日本各地のジオパークでの取り組みを紹介し、多くの市民が聴講した。



(6) 男鹿市加茂青砂地区交流事業「ハタハタ寿司づくりと集落座談会」

高齢化の進行等により若い世代へその味を受け継ぐことが難しくなっている「ハタハタ寿司」という食文化を継承するとともに、若い世代と地域住民との交流の場、そして地域課題の解決に向けて住民同士の話し合いの場を設けることを目的として実施した。

①ハタハタ寿司づくり

実施日 平成24年12月17日(月)

会場 男鹿市戸賀加茂青砂地区

かもあおさ笑楽校

参加者 秋田大学地域創生センター

副センター長 松岡昌則

秋田大学職員3名

秋田大学生4名

地元の方の指導のもと、ハタハタ寿司の漬け込みを行った。3種類の作り方で作成し、それぞれの作り方の違いを確認しながら、材料の切り分けと漬け材とともに樽に漬け込む作業に取り組んだ。



②ハタハタ寿司試食会&集落座談会

実施日 平成25年1月13日(土)

会場 男鹿市戸賀加茂青砂地区

かもあおさ笑楽校、加茂青砂集会所

参加者 秋田大学地域創生センター

副センター長 松岡昌則

秋田大学教職員5名

秋田大学生5名

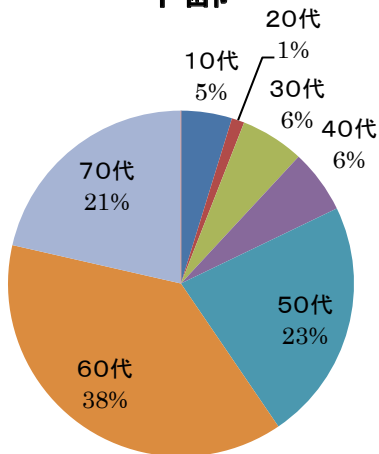
地域住民11名

学生が12月に漬け込んだハタハタ寿司の試食を兼ねて、地域住民との集落座談会を開催した。歓談を通して、家々によって異なるハタハタ寿司の製法や昔の男鹿の姿、集落での暮らしなど、貴重な話を聴くことが出来たようだった。

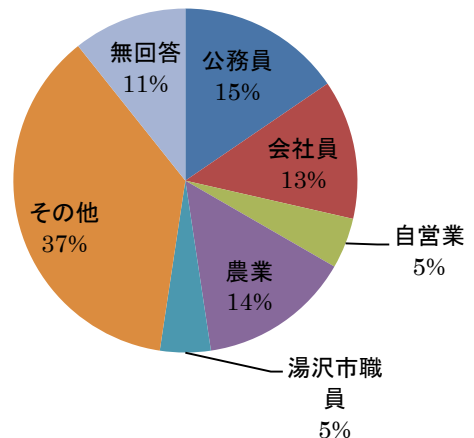


秋田大学と湯沢市との連携協定締結式及び記念講演会
アンケート集計結果

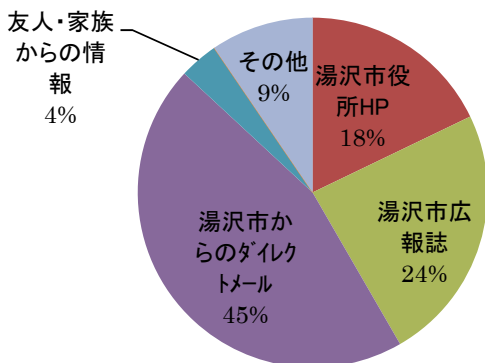
年齢



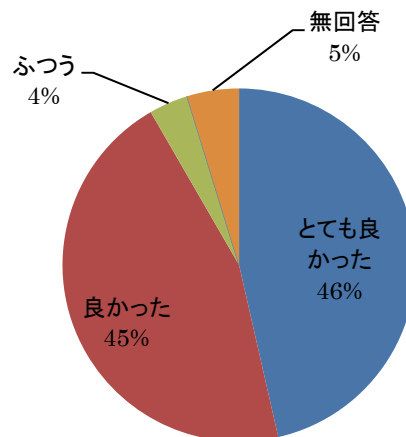
職業



何で知ったか



内容について



公開講座総受講者数 107名
アンケート回答者数 84名
(回収率78.5%)

■参加者の声（抜粋）

- ・具体例も含めた内容で大変活用できる内容でした。
- ・詳しいジオの内容解説、今後のあり方、具体的なことについてわかりました。ありがとうございました。ジオの取りくみが、市民の暮らしに根づき、有効な地域発展につながっていく様子を考えることができました。
- ・私たちもジオパークに積極的に参加していきたいです。ありがとうございました。

■アンケート分析

平日の日中の開催だったこともあり、受講者は公務員や自営業、その他（無職）のように比較的時間を取りやすい職業の方が多く、年代も60代以上が半数以上を占めていることが分かる。

「何で知ったか」の質問においては、「湯沢市からのダイレクトメール」が大部分を占めているが、他方、四人に一人は「湯沢市広報誌」で情報を得ており、地元広報誌も重要な情報源の一つであることが分かる。

感想欄では、改めて「ジオパーク」がどういったものであるかを認識するとともに、今後の各活動への参加を望む声が多く見受けられ、本講演が市民にとって「ジオパーク」を考える契機となったことを期待したいと思う。

1. 5 大学訪問受入

受入団体数：27件
総訪問者数：807名



●事業内容

大学という機関を知り、興味を深めてもらうことを目的に、中学校の「総合的な学習の時間」におけるキャリア教育や、一般団体の大学見学など、各種ニーズに応じて秋田大学への訪問を受け入れている。

●事業成果と課題

訪問団体数は年々増加傾向にあり、最も多いのは中学生の訪問である。学年単位での大人数の訪問が増えてきたこともあり、生徒一人一人に対し、各々が抱えている疑問を解消出来るようなプログラムの工夫が必要である。

実施内容

(1) 北秋田市立鷹巣中学校

実施日 平成24年5月8日(火)
会場 大学会館研修室1・2、附属図書館本館
担当 秋田大学地域創生課 課長 笹村和雄
人数 10名(2年生)

上級学校についての理解を深め、大学がどのような場所か
知ることを目的に来学した。



(2) にかほ市立金浦中学校

実施日 平成24年5月9日(水)
会場 VBL大セミナー室、材料工学科1階EPMA室、
共-127室、他
担当 秋田大学大学院工学資源学研究所材料工学専攻
教授 石尾俊二
地域創生センター 副センター長 松岡昌則
人数 47名(2年生)

上級学校についての理解を深める目的で来学した。



(3) 八峰町立八森中学校

実施日 平成24年5月10日(木)
会場 本部管理棟一階 地域創生課
担当 秋田大学地域創生課 課長 笹村和雄
人数 3名(2年生)

職場体験学習の一環として来学した。



(4) 小坂町立小坂中学校

実施日 平成24年5月22日(火)
会場 附属鉱業博物館、教育文化学部1号館201講義室 他各研究室
担当 秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
秋田大学教育文化学部
文化環境講座 教授 渡部育子
生活者科学講座 准教授 池本敦
秋田大学大学院工学資源学研究科
環境応用科学専攻 教授 寺境光俊
附属ものづくり創造工学センター 助教 和田豊
人数 47名(1年生)

キャリア教育の一環として上級学校についての理解を深めることを目的に来学した。



(5) 大館市立田代中学校



実施日 平成24年5月22日(火)
会場 教育文化学部3号館天体観測室、図書館研修室
担当 秋田大学教育文化学部発達教育講座
准教授 山名裕子
人数 3名(2年生)

キャリア教育学習の一環として、保育士の仕事に興味がある生徒たちが来学した。

(6) 大館市立下川沿中学校



実施日 平成24年5月23日(水)
会場 ミーティングルーム
担当 秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
人数 3名(2年生)

学校教員を目指す生徒たちが、教員の仕事について話を聞くため来学した。

(7) 大館市立第一中学校



実施日 平成24年5月24日(木)
 会場 ミーティングルーム、臨床心理学研究室、
 教育文化学部3号館第4会議室
 担当 秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
 秋田大学教育文化学部
 教科教育学講座 教授 佐々木雅子
 教育心理学講座 教授 高田知恵子
 人数 11名(2年生)

キャリア教育の一環として教員に話を聴くため来学した。

(8) 能代市立能代第一中学校

実施日 平成24年5月24日(木)
 会場 教育文化学部3号館第4会議室
 担当 秋田大学教育文化学部教科教育学講座
 教授 佐々木雅子
 人数 5名(2年生)

上級学校訪問の一環で、学校教員の仕事について知るために来学した。



(9) 秋田市退職校長会



実施日 平成24年6月14日(木)
 会場 インフォメーションセンター、附属図書館、
 附属鉱業博物館
 担当 附属図書館職員 高橋寛
 人数 21名

市内施設見学の一環として来学した。

(10) 大曲自然友の会

実施日 平成24年6月19日(火)
 会場 附属鉱業博物館
 担当 秋田大学地域創生センター 地域防災部門
 准教授 鎌滝孝信
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
 長谷川正俊 他2名
 人数 31名

災害についての意識を高めることを目的に来学した。



(11) 大仙市立大曲中学校



実施日 平成24年6月29日(金)
会場 教育文化学部3号館255講義室、天体観測室、
VBL(ハンチャー・ビジネスマホラトリ) 実験解析室
担当 秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
秋田大学教育文化学部技術部基礎技術系
技術職員 毛利春治
秋田大学大学院工学資源学研究所環境応用化学専攻
教授 柴山敦
VBL 特任助教 芳賀一寿 他TA2名
人数 52名(3年生)

上級学校についての理解を深める目的で来学した。

(12) 秋田県立大館鳳鳴高校

実施日 平成24年7月3日(火)
会場 教育文化学部4号館526室 他各会場
担当 秋田大学教育文化学部基礎数理講座
教授 宇野力
秋田大学大学院工学資源学研究所
電気電子工学専攻 准教授 山口留美子
共同ライフサイクルデザイン工学専攻 准教授 佐藤正志
附属鉱業博物館 講師 西川治
人数 15名(2年生)



SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の課題研究の一環として来学した。

(13) 秋田市立城南中学校

実施日 平成24年7月4日(水)
会場 ミーティングルーム
担当 秋田大学地域創生課 職員 本多壮一郎
人数 5名(2年生)

上級学校についての理解を深める目的で来学した。



(14) 秋田市立御所野学院中学校



実施日 平成24年7月19日(木)
 会場 一般教育棟1号館208会議室
 担当 秋田大学地域創生センター 副センター長 松岡昌則
 防災部門長 准教授 水田敏彦
 人数 38名(3年生)

自らの進路を考えることで学習に対する意識を高めることを目的とした「自分探求学」の一環として来学した。

(15) かんば学童教室

実施日 平成24年7月30日(月)
 会場 附属ものづくり創造工学センター
 附属鉱業博物館
 担当 秋田大学大学院工学資源学研究科
 附属ものづくり創造工学センター
 助教 和田豊
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア2名
 人数 28名(小学校1~5年生)

社会科見学として来学した。



(16) 大仙市立大曲西中学校

実施日 平成24年8月2日(木)
 会場 大学会館研修室1・2
 担当 秋田大学地域創生センター
 副センター長 松岡昌則
 秋田大学大学院工学資源学研究科材料工学専攻
 准教授 佐藤芳幸
 人数 9名(1年生)

上級学校についての理解を深める目的で来学した。



(17) 秋田大学教育文化学部附属中学校



実施日 平成24年8月7日(火)
 会場 総合研究棟4F 長縄研究室
 担当 秋田大学大学院工学資源学研究科機械工学専攻
 教授 長縄明大
 人数 3名(2年生)

総合学習における調査活動の一環として、ロボットについて学習するため来学した。

(18) 秋田県立横手清陵学院中学校 サイエンスキャンプ



実施日 平成24年8月9日(木)、10日(金)
会場 教育文化学部3号館344講義室、天体観測室、
附属鉱業博物館
担当 秋田大学教育文化学部
環境情報講座 大学院担当教授 上田晴彦
技術部基礎技術系 技術職員 毛利春治
大学院工学資源学研究科
附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
小沼啓作、長谷川正俊

人数 13名(3年生)

科学への興味を深める「サイエンスキャンプ」の一環として、2日間にわたり来学した。

(19) 秋田市立城東中学校

実施日 平成24年8月23日(木)
会場 多文化交流ラウンジ
担当 秋田大学地域創生課 課長 笹村和雄
人数 1名(3年生)

総合学習における調査活動の一環として来学した。



(20) 秋田県立秋田北高校

実施日 平成24年8月28日(火)
会場 工学資源学部4号館228講義室、他各会場
担当 秋田大学大学院工学資源学研究科
環境応用化学専攻 教授 中田真一
助教 小笠原正剛
生命科学専攻 教授 伊藤英晃 他学生TA3名
電気電子工学専攻 准教授 山口留美子
准教授 田中元志

人数 39名(2年生)

理科実践研修の一環で来学した。



(21) 秋田県立大館国際情報学院中学校

実施日 平成24年9月4日(火)
 会場 教育文化学部3号館145講義室、
 附属鉱業博物館
 担当 秋田大学地域創生課 職員 本多壮一郎
 附属鉱業博物館 サイエンスボランティア
 上田康熙 他5名
 人数 77名(2年生)



上級学校についての理解を深める目的で来学した。

(22) 美郷町立美郷中学校



実施日 平成24年9月25日(火)
 会場 教育文化学部3号館145講義室
 担当 秋田大学大学院工学資源学研究科地球資源学専攻
 助教 網田和宏
 人数 186名(3年生)

総合学習の一環として来学し、模擬授業体験や学内見学を行った。

(23) 秋田市立飯島中学校



実施日 平成24年10月1日(月)
 会場 附属鉱業博物館
 担当 秋田大学大学院工学資源学研究科
 技術専門員 千田恵吾
 人数 4名(2年生)

職場体験学習の一環として附属鉱業博物館を見学した。

(24) 秋田県立由利高校

実施日 平成24年5月16日(水)、6月6日(水)、10月3日(水)

会場 工学資源学部4号館328講義室、その他各研究室

担当 秋田大学横手分校 分校長 根岸均

秋田大学大学院工学資源学研究科

環境応用化学専攻 教授 中田真一

助教 小笠原正剛

助教 松本和也

VBL 特任助教 芳賀一寿

附属ものづくり創造工学センター

助教 和田豊

情報工学専攻 講師 横山洋之

附属鉱業博物館 講師 西川治

人数 38名(2年生)

理科実践研修として、全3回に渡り来学した。



(25) ソルベント会(秋田大学学芸学部OB・OG会)



実施日 平成24年10月5日(金)

会場 インフォメーションセンター、附属図書館、
附属鉱業博物館

担当 秋田大学企画広報課 職員 佐藤寛子

附属図書館 総括主査 飯沼邦恵

附属鉱業博物館 サイエンスボランティア

佐藤賢一、倉田雄二郎

人数 16名

リニューアルした秋田大学の施設を見学するため来学した。

(26) 秋田県立横手清陵学院中学校

実施日 平成24年11月9日(金)

会場 教育文化学部3号館145講義室、一般教育棟2号館203講義室、各研究室

担当 地域創生センター 教授 松岡昌則

教育文化学部国際コミュニケーション講座 教授 三宅良美

附属鉱業博物館 サイエンスボランティア 上田康熙 他6名

各研究室学生(担当教員は以下のとおり)

<教育文化学部>

生活者科学講座 准教授 西川竜二

日本・アジア文化講座 准教授 高村竜平

発達教育講座 准教授 山名裕子

発達教育講座 准教授 紺野祐

<大学院工学資源学研究科>

機械工学専攻 教授 田子真

環境応用化学専攻 教授 中田真一

共同ライフサイクルデザイン工学専攻 教授 玉本英夫



人数 79名(2年生)

キャリア教育の一環として上級学校についての理解を深めるため来学した。

(27) 大仙市立豊成中学校



実施日 平成24年11月30日(金)

会場 教育文化学部3号館145講義室、4号館219実験室、
工学資源学部1号館307室

担当 教育文化学部教科教育講座 准教授 川村教一

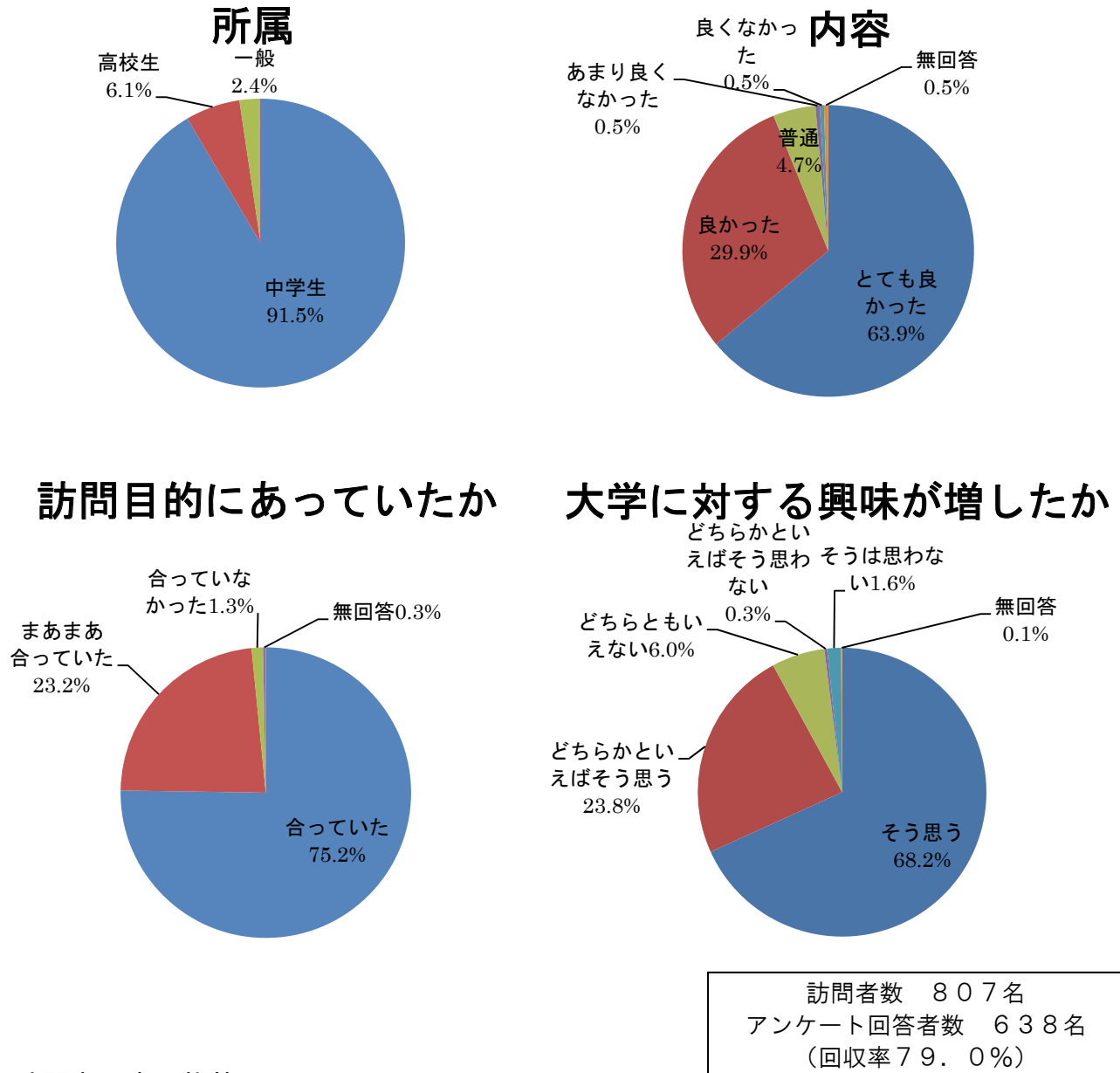
大学院工学資源学研究科電気電子工学専攻

講師 カビール ムハムドゥル

人数 23名(3年生)

上級学校についての理解を深める目的で来学した。

大学訪問受入 アンケート集計結果



■訪問者の声（抜粋）

- ・いつもはあまり大学を気にしていませんでしたが、今回いろいろな大学の顔が見れてよかったです。（中学生）
- ・とても本格的な実験をさせていただき、高校までとは全然違い、色々計量などをしたりして化学の楽しみが分かった気がします。（高校生）
- ・昭和34年卒業以来の本格的訪問にその変ぼうの大きさにびっくりした。学部・管理棟の名称は変わってもかつて歩いた構内道路にはその懐かしさを十分よみがえさせてもらった。（一般）

■アンケート分析

中学生の訪問が多いが、高校生、一般の訪問もわずかにある。「内容」、「訪問目的にあったか」および「大学に対する興味が増したか」の質問では、いずれも肯定的回答がほとんどを占めており、概ね訪問団体の希望に合わせたプログラムを組むことが出来ていると思われる。訪問目的としては、中学生は上級学校訪問として来学することが多く、高校生は理科研修、一般では本学卒業生の見学としての訪問もある。

1. 6 地域創生センター主催

事業実施数：2件



●事業内容

これまで見てきた各事業のほかにも、地域創生センターが主催して講演会等を実施している。中でも、「秋田大学子ども見学デー」は大学の法人化以降毎年度継続して実施しているイベントであり、参加者から好評を得ている。

●事業成果と課題

「秋田大学子ども見学デー」は全 11 コース、222 名の参加があり、過去最大の規模となった。これは前年度のアンケート結果をうけ、実施日を 8 月前半に変更したところが大きいと思われる。

日本におけるブータン研究の大家である山本けいこ氏を招いて実施した「東京サテライト教養セミナー『ブータン王国に学ぶこと～真の幸せとは～』」は、やや専門的な内容であったものの、多くの人にとってブータンを身近に感じる機会となったようである。

今後も、学内外に秋田大学の持つ知的資源を還元していけるような事業を企画したい。

実施事業

(1) 秋田大学子ども見学デー ～未来の自分を探しに行こう！～

実施日 平成24年8月9日(木)

会場 秋田大学

- コース
- ・教育文化学部(3コース)
 - ・医学部(3コース)
 - ・工学資源学部(2コース)
 - ・総合情報処理センターコース
 - ・ベンチャーインキュベーションセンターコース
 - ・附属図書館コース



小・中学生とその保護者を対象として、夏休みの間に大学内の見学や様々な体験を通して、大学に対する関心を深めてもらうことを目的として開催した。平成16年度から継続実施しており、今年度は過去最多の92家族222名が参加した。参加者は60周年記念ホールにて当日のスケジュールや秋田大学の概要について説明を受け、コース毎に学長と記念撮影、その後11の見学コースに分かれて体験学習を実施した。

今回も昨年度に引き続き大学食堂で利用できるデザート無料引換券が配付され、コース見学終了後、食堂は多数の親子連れで賑わった。

≫地域創生センター主催

(2) 東京サテライト教養セミナー「ブータン王国に学ぶこと～真の幸せとは～」

実施日 平成25年2月8日(金)

会場 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京 多目的室3

担当講師 秋田大学国際交流センター 准教授 西田文信

「ブータン 雷龍王国への扉」著者 山本けいこ

参加者 42名

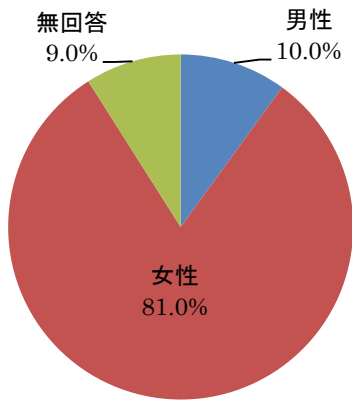
ブータン王国は、国民総幸福量（GNH）という独自の考え方を国家の指標として打ち出し、現在、世界中から注目を集めている。そのブータン王国唯一の国立大学、王立ブータン大学と秋田大学は平成24年7月に日本国内の大学では初となる大学間国際交流協定を締結した。本セミナーは、ブータン王国への理解を深めることを目的に開催。ブータン王国の歴史や文化、日本との関わりなど対談形式で解説した。参加者からは「ブータンという国が身近になった」「現地の状況や人のありかたが実感できた」といった声が聞かれ、ブータン王国への理解を深める機会となったようだった。



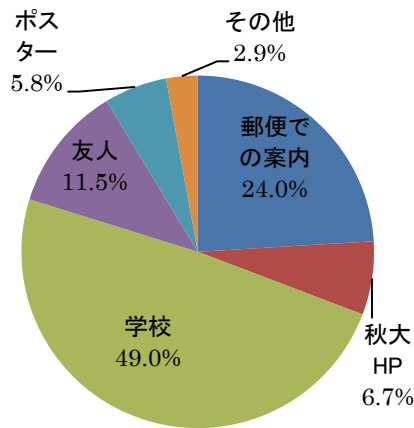
地域創生センター主催事業 アンケート集計結果
 <子ども見学デー>

保護者（参加者数101名，アンケート回収数100 回収率99.0%）

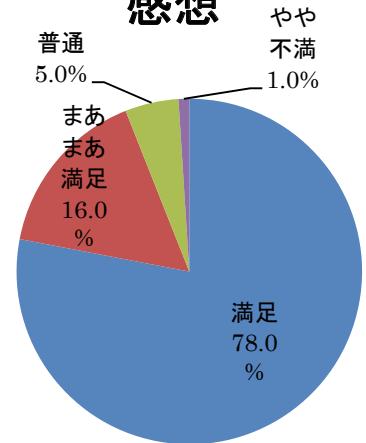
性別



何で知ったか

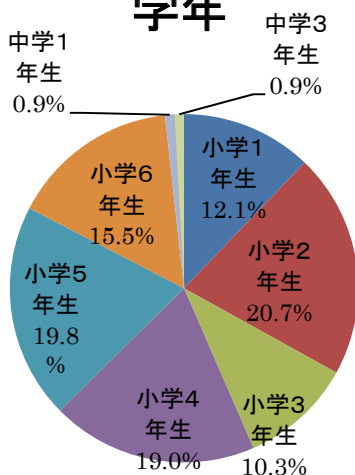


感想

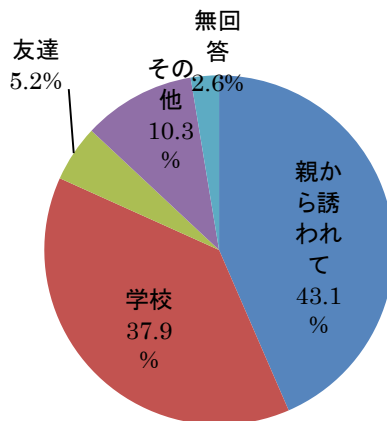


子ども（参加者数121名，アンケート回収数116 回収率95.8%）

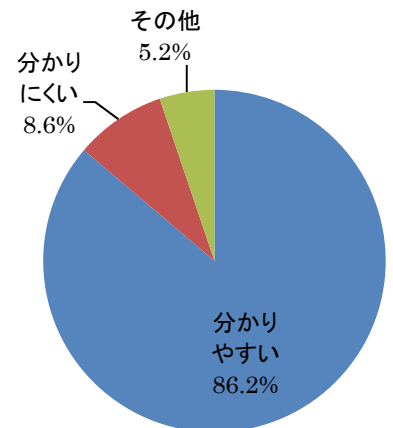
学年



何で知ったか



説明の分かりやすさ



■参加者の声（抜粋）

- <保護者> ・秋田大学に来る機会が出来、いいイベントだと思います。
 ・（子どもが）初めて見る大学に、目をキラキラさせていました。これがきっかけとなり、大学に入りたい！という気持ちがつよくなったようです。
- <子ども> ・もともと算数が好きだったけど、もっと好きになりました。今日はありがとうございました。
 ・来年はべつのコースでいろいろしらべたりしたい。

■アンケート分析

子どもの参加はほとんどが小学生であり、保護者の8割以上は女性、すなわち母親であることが分かる。
 「何で知ったか」の質問において、保護者・子どもともに「学校」の回答が多いことから、学校へ向けた周知が効果的と思われる、その他の項目を見ると、友人を通じての参加も多いようである。
 昨年度のアンケートで、実施日をそれまでの8月下旬から8月上旬へ変更することを望む声が多く聞かれ、そのように変更したところ、実施日に対する評価が75%→97%に上昇したことから、この変更は適切であったと思われる。

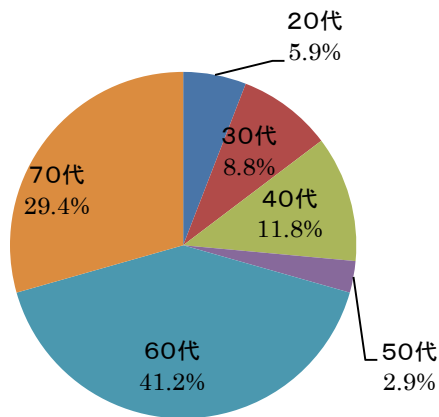
≫地域創生センター主催

地域創生センター主催事業 アンケート集計結果

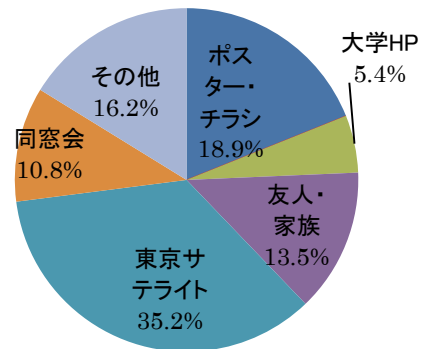
<東京サテライト教養セミナー

「ブータン王国に学ぶこと～真の幸せとは～」>

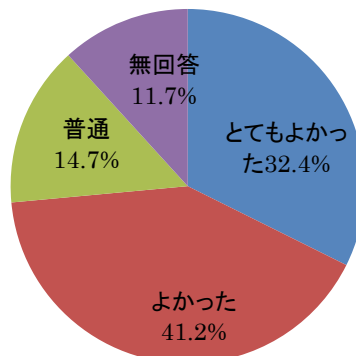
年齢



何で知ったか



感想



参加者数 42名
アンケート回答者数 34名
(回収率80.9%)

■参加者の声（抜粋）

- ・もっともっとお話を聴きたかったです。
- ・ブータンという国が身近になりました。一度行ってみたいな～と思います。
- ・現地の状況や人々のありさまがよく実感でき、有意義であった。

■アンケート分析

参加者の多くは60代以上の高齢の方であったが、比較的若い方の参加もあった。

開催を何で知ったかについては、東京サテライトからの過去受講者への案内が最も多かった一方、秋田大学の同窓会を通じての案内も効果を示したようである。

評価は概ね良好であったものの、「テーマと内容が合っていない」、「質問の時間が欲しい」など、今後につながる指摘もいくつかいただいた。

今回のように県外で開催する場合は、アンケート項目に出身地や現住所を聞く項目も設けるべきと感じる。

1. 7 他部局主催 (年度計画推進経費による)

事業数：6件



●事業内容

地域創生センターの年度計画推進経費により、他部局で催行する社会貢献事業を支援している。

●事業成果と課題

天文台イベントや憩いのコンサート、附属ものづくり創造工学センターにおけるものづくり教室など、定期的で開催されるイベントは毎回好評を博している。

その他にも、広く市民を対象とした科学教室など、秋田大学への理解を深めてもらえるような事業を多く開催することができた。

実施事業

(1) 秋田大学天文イベント

実施日 平成24年4月21日(土)～平成25年3月2日(土)

会場 秋田大学教育文化学部天文台

一般市民や中高生を対象として、天文台に親しみ活用してもらうことを目的に開催。45cm大型反射望遠鏡「ミルエル」での天体観測の他、星空案内人資格認定講座や天文講演会などを実施し、今年度も多くの市民が参加し、好評を得た。

	実施日	内容	担当講師
1	平成24年 4月7日(土)	イベント①天文講演会 「最新の天文学や身近な天文現象について」	秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「月、木星・金星・火星・土星、M81・M82 銀河の 観察の観察」	
		星空案内人資格認定講座 星空案内人(準案内人)認定書授与式および 情報交換会	
2	4月21日(土)	イベント①天文講演会 「一家に1枚 太陽」の見方	星空案内人(準案内人) 池田味栄子
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「金星・火星・土星、M51 子持ち銀河の観察」	
3	4月28日(土)	第12回天文サイエンスカフェ ～2012年の見逃せない天文現象	StarShip 星空案内人(準案内人) 新野典子

▶他部局主催

4	5月 5日 (土)	イベント①天文講演会 「最新の天文学について」	秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「月と金星・火星・土星, M53 球状星団の観察」	
5	5月 21日 (月)	特別イベントー市民のための天体観察会ー 「部分日食の観察」	
6	5月 26日 (土)	第 13 回天文サイエンスカフェ 「今年の太陽系惑星界はおもしろい」	StarShip 星空案内人 (準案内人) 新野典子
7	6月 2日 (土)	イベント①天文講演会 「国際宇宙ステーション ISS を見よう」	秋田大学教育文化学部 技術長 成田堅悦
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「月, 火星・土星, M51 子持ち銀河の観察」	
8	6月 4日 (月)	特別イベントー市民のための天体観察会ー 「部分月食と金星の日面通過の観察」	
9	6月 16日 (土)	第 14 回天文サイエンスカフェ 「親子で楽しむ星空～ファミリーで星のお話と音楽を楽しみましょう～」	小野真弓 (sop) 浦恵美 (pf) ミュージックコンセール
10	7月 7日 (土)	イベント①天文講演会 「七夕物語と夏の星座」	秋田大学天文ボランティア 黒田修
		イベント②天文講演会 「太陽系の火山のお話」	秋田大学教育文化学部 教授 林信太郎
		イベント③市民のための夜間天体観察会 「火星・土星, M5 球状星団の観察」	
11	7月 15日 (日)	第 15 回天文サイエンスカフェ 「七夕と夏の星座たち」	StarShip 星空案内人 (準案内人) 新野典子
12	8月 4日 (土)	イベント①天文講演会 「最新の天文学や身近な天文学について」	秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「火星と土星, M13 球状星団の観察」	
		第 16 回天文サイエンスカフェ 「ペルセウス流星群のお話」 「金星食のお話し」	秋田大学天文ボランティア 藪田智輝 星空案内人 (準案内人) 小野真弓
13	9月 8日 (土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第 1 回 さあ, はじめよう」	秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「火星, M57 リング星雲の観察」	
14	10月 6日 (土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第 2 回 宇宙はどんな世界」	秋田大学教育文化学部 教授 上田晴彦
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「月と M11 散開星団の観察」	
15	10月 20日 (土), 21日 (日)	特別イベントー秋田大学祭, 特別一般公開ー	
16	11月 3日 (土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第 3 回 望遠鏡のしくみ」	秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
		イベント②市民のための夜間天体観察会 「火星と M2 球状星団の観察」	
17	11月 4日 (日)	①秋の四辺形からアンドロメダ銀河・M33 ②木星と冬の一等星おうし座アルデバラン・ヒアデス星団・プレアデス星団	天文学ファン倶楽部 星空案内人 (準案内人) 小野真弓

18	12月1日(土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第4回 星の文化に親しむ」 イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星, M31 アンドロメダ大銀河の観察」	秋田大学教育文化学部 准教授 川村教一
19	12月26日(水)	第17回天文サイエンスカフェ 親子で楽しむ「クリスマス☆キラキラ☆コンサート」	天文学ファン倶楽部 星空案内人(準案内人) 小野真弓
20	平成25年 1月5日(土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第5回 星座をみつけよう」 イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星, ペルセウス座二重星団 h-x の観察」	秋田大学教育文化学部 技術長 成田堅悦
21	2月2日(土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第6回 望遠鏡をつかってみよう」 イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星, M45 プレアデス星団(すばる)の観察」	秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
22	3月2日(土)	イベント①星空案内人資格認定講座 「第7回 星空案内の実際」 イベント②市民のための夜間天体観察会 「木星と M42 オリオン大星雲の観察」	秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
23	3月9日(土)	第18回天文サイエンスカフェ&ミニコンサート ・地球に近づいた小惑星, パンスタース彗星について ・春のフルーツ・ソプラノの調べ パンスタース彗星観測会 45cm 反射望遠鏡「ミルエル」他で観測	小野安広 (FL) 小野真弓 (SOP) ミュージックコンセル 秋田大学教育文化学部 技術専門員 毛利春治
24	3月12日(火), 15日(金)	特別イベントー市民のための天体観察会ー 「パンスタース彗星の観察」	

(2) 秋大憩いのコンサート

開催期間 平成24年4月21日(土)～平成25年3月23日(土) 計12回

会場 秋田大学インフォメーションセンター

平成22年4月に手形キャンパスに開設したインフォメーションセンターを広く知ってもらい、社会貢献に活用するために開催した。月1回、全12回にわたって、本学教員や学生、卒業生等が出演した。

	実施日	内容
第19回	平成24年 4月21日(土)	ロシアン・メランコリー (ロシアの小品を集めて) 演奏: 教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋 (ピアノ)
第20回	5月27日(日)	天使のパン ボーイ・ソプラノとメゾ・ソプラノの響き 演奏: 三浦央典 (ボーイ・ソプラノ)、齋藤琴美 (メゾ・ソプラノ)、 浦恵美 (ピアノ)
第21回	6月30日(土)	日本歌曲の楽しみ (九十九里/丹沢/くちなし/小さな空 ほか) 演奏: 教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一 (テノール) 佐藤和穂 (ピアノ)
第22回	7月29日(日)	名曲アルバム ワルツ編 (ショパン ワルツより/J シュトラウスII 美しき青きドナウ ほか) 演奏: 山田朗子 (ピアノ)
第23回	8月19日(日)	サマーブリーズな午後 (「アルルの女」より、メヌエット/蘇州夜曲 ほか) 演奏: 高橋雅博 (フルート)、丸山ちはる (ピアノ)

第24回	9月25日(日)	モーツァルト大好き！ (アンダンテと変奏曲/すみれ/バイオリンとピアノのためのソナタ ほか) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋(ピアノ) 准教授 爲我井壽一(テノール) 富樫彩子(ピアノ)、北嶋奏子(バイオリン)
第25回	10月28日(日)	バロックの調べ (カッチーニ アマリッリ/ヘンデル ラルゴ ほか) 演奏：石川佳代(ソプラノ)、浦恵美(ピアノ)
第26回	11月18日(日)	情熱のスパニッシュ・ピアノ (アルベニス、グラナドス、ファリャ… スペインの小品を集めて) 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 齋藤洋(ピアノ)
第27回	12月15日(土)	学生によるクリスマス・コンサート 演奏：音楽教育講座2年生
第28回	平成25年 1月27日(日)	ピアノ三重奏の魅力ピアノトリオ”コレンテ” (メンデルスゾーン ピアノ三重奏曲ニ短調 作品 49～第1楽章 ほか) 演奏：大谷祥子(ピアノ)、北嶋奏子(バイオリン)、藤原ケイ子(チェロ)
第29回	2月17日(日)	ザ・ロマンティック・ピアノ おしゃべりピアニスト”アラタマン”による華麗なるワンマンショー 演奏：能美新(ピアノ)
第30回	3月23日(土)	美しい春の調べ 演奏：教育文化学部音楽教育講座 准教授 爲我井壽一(テノール) 富樫彩子(ピアノ)

(3) 子どもものづくり教室

子どもたちを対象に、ものづくりを通して科学に直接触れ、体験することで科学や宇宙へ興味を持ってもらうことを目的に平成21年度から実施している。今年度は11回に渡って開催した。

①第1回「ブルブルねずみを走らせよう」

実施日 平成24年4月29日(日)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷 修
副センター長・助教 和田 豊
地球資源学専攻 助教 坂中伸也
環境応用化学専攻 准教授 高橋博
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども21名 保護者20名

身近な機械やおもちゃなどの原理に使われる振動運動について学習し、ブラシの毛並と進む方向の関係を理解することで自然科学への関心を向上させ、製作の楽しさを体験してもらうことを目的に開催した。

②第2回「パラシュート付き水ロケットを飛ばそう！」

実施日 平成24年5月27日(日)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究所
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
生命科学専攻 助教 藤原一彦
地球資源学専攻 助教 坂中伸也
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども26名 保護者22名

水ロケットは、身近にあるペットボトルで簡単に作ることができ、うまく作ることができれば綺麗に飛ばすことができる。さらに、今回は上空でパラシュートを開き、ゆっくりと回収することを目指して製作した。

③第3回「手づくり紙飛行機で

滞空時間ギネス記録に挑戦！」

実施日 平成24年6月24日（日）

会場 セリオプラザ

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科附属

ものづくり創造工学センター

センター長・教授 神谷修

副センター長・助教 和田豊

材料工学専攻 教授 大笹憲一

電気電子工学専攻 准教授 水戸部一孝

日本折り紙ヒコーキ協会 岸本光夫

技術職員 加藤隆一

技術系補佐員 齊藤亜由子

参加者 子ども29名 保護者30名

ものづくりだけでなく、実際に作ったものを使って競い合う「ものづくりチャレンジ！」と題して手づくり紙飛行機の滞空時間競技でギネス記録に挑戦を行った。

④第4回「日本水ロケットコンテスト2012秋田県大会」

実施日 平成24年7月29日（日）

会場 勝平市民グラウンド

主催 秋田大学大学院工学資源学研究科

附属ものづくり創造工学センター

YAC（日本宇宙少年団）秋田分団

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科

附属ものづくり創造工学センター

センター長・教授 神谷修

副センター長・助教 和田豊

土木環境工学専攻 准教授 荻野俊寛

共同ライフサイクルデザイン工学専攻

准教授 山口邦彦

技術職員 加藤隆一

技術系補佐員 齊藤亜由子

YAC（日本宇宙少年団）秋田分団

分団長 土岐仁

YAC秋田分団ボランティアリーダー

参加者 子ども19名 保護者21名

YAC秋田分団（日本宇宙少年団）と連携し、9月に全国大会が開催される「日本水ロケットコンテスト2012」に繋がる秋田県大会と題して水ロケットの定点競技大会を行った。

⑤第5回「能代宇宙イベントモデルロケット打上体験と

宇宙開発の本物見学会」

実施日 平成24年8月19日（日）

会場 秋田県能代市

宇宙広場（秋田県浅内第三鉱さい堆積場）

主催 秋田大学大学院工学資源学研究科

附属ものづくり創造工学センター

YAC（日本宇宙少年団）秋田分団

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科

附属ものづくり創造工学センター

センター長・教授 神谷修

副センター長・助教 和田豊

附属環境資源学研究センター

准教授 菅原透

環境応用化学専攻 准教授 高橋博

技術職員 加藤隆一

技術系補佐員 齊藤亜由子

参加者 子ども15名

毎年8月に秋田県能代市で開催されている能代宇宙イベント内でモデルロケットの打上体験を行った。

⑥第6回「ものづくりチャレンジ！

エッグドロップコンテストに挑戦！」

実施日 平成24年9月30日（日）

会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室

担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科

附属ものづくり創造工学センター

センター長・教授 神谷修

副センター長・助教 和田豊

地球資源学専攻 助教 坂中伸也

技術部 総括技術長 川辺金光

技術職員 加藤隆一

技術系補佐員 齊藤亜由子

参加者 子ども9名

紙とセロハンテープだけで卵を守るプロテクター作り、高い位置から落とし割れないようにする「エッグドロップコンテスト」を行った。

⑦第7回「太陽の光を電気エネルギーに変えて走る車！
手作りソーラーカー」

実施日 平成24年10月27日(土)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
機械工学専攻 准教授 長谷川裕晃
生命科学専攻 助教 藤原一彦
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども5名 保護者4名

太陽の光を電気エネルギーに変える電池「太陽光パネル」
を搭載したミニカーを製作した。

⑨第9回「よく弾むスーパーボール作りに挑戦」

実施日 平成24年12月23日(日)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
土木環境工学専攻 准教授 荻野俊寛
技術部 総括技術長 川辺金光
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども16名 保護者16名

スーパーボールの材料であるラテックスについての
説明やラテックスが固まる原理、スーパーボールの跳ね返
る高さについて学びながら、化学実験を交えたスーパーボ
ール作りを実施した。

⑪第11回「これがプログラミング?!」

ビスケットでゲーム作りにチャレンジ!
実施日 平成25年3月17日(日)
会場 秋田大学工学資源学部 CAD室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
機械工学専攻 准教授 長谷川裕晃
技術部 総括技術長 川辺金光
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども21名 保護者20名

専門的な知識がなくても簡単に操作することができる
ビジュアルプログラミング言語「ビスケット」を使い、ゲ
ーム作りに挑戦した。

⑧第8回「ゆらぎクリスマスキャンドルを作ろう！」

実施日 平成24年11月25日(日)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
材料工学専攻 講師 棗千修
情報工学専攻 助教 藤原克哉
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども18名 保護者16名

ジェルキャンドルとよばれるロウを使って、空気の微妙
な流れで揺らぐキャンドルの炎を再現した「ゆらぎ」クリ
スマスキャンドルを製作した。

⑩第10回「ゴールをめざして歩け! トコトコ君」

実施日 平成25年2月17日(日)
会場 ものづくり創造工学センター創造組立作業室
担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
附属ものづくり創造工学センター
センター長・教授 神谷修
副センター長・助教 和田豊
共同ライフサイクルデザイン工学専攻
准教授 山口邦彦
附属環境資源学研究センター
准教授 菅原透
技術職員 加藤隆一
技術系補佐員 齊藤亜由子
参加者 子ども12名 保護者11名

動力を使わず2本足で歩くロボット「トコトコ君」の、
2本足で歩く原理と製作方法についての説明を聴きなが
ら、製作を行った。

(4) 親子環境教室「環境をはかろう。学ぼう。」

実施日 平成24年8月10日(金)
 会場 秋田大学工学資源学部4号館132実験室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学専攻 中田研究室
 秋田大学非常勤講師 野村正幸

環境問題に対する意識向上と科学への興味を引き出すことを目的に実施した。7つテーマで演示実験を行い、二酸化炭素の性質・特徴学習したりや身のまわりの物質の pH を測る実験を通して環境について考える機会となった。



(5) 秋田大学総合技術部 第4回テクノフェスタ「体験して広げよう 未来の夢」

実施日 平成24年12月1日(土)
 会場 秋田拠点センター・アルヴェ きらめき広場
 担当 秋田大学総合技術部

秋田大学の教育研究等で利用される専門技術について、地域で広く知ってもらうため、平成21年度から開催している。今年度は金属探知機を使った宝探しや野菜や果物からのDNA抽出体験など15の体験ブースが設置され、多くの家族連れで賑わった。

また、昨年度好評を得たスタンプラリーの他に、新たな試みとしてインターネットでの生中継を実施した。



(6) 秋田土壌浄化コンソーシアム 平成24年度教育・啓発事業

子ども科学教室「土を科学しよう」

実施日 平成24年12月26日(水)
 会場 秋田大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー
 大セミナー室、リサイクル関係実験室
 秋田大学工学資源学研究科環境応用化学科実験室
 担当講師 秋田大学大学院工学資源学研究科
 環境応用化学専攻 中田研究室
 秋田大学非常勤講師 野村正幸

土壌や水の浄化等の環境における技術をテーマに、環境問題に対する意識向上と科学への興味を引き出すことを目的に開催した。参加者は「土の種類と化学」というテーマでレクチャーを受けた後、珪藻土や炭を使った実験を体験した。また、リサイクル関係の実験室の見学も行い、環境や自然との共生について考える機会となったようだった。

1. 8 その他

(1) 秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力

今年度も引き続き秋田県赤十字血液センターの献血事業への協力として、献血カーの受入を年間 18 件行った。学内への献血カー運行の際など、学生や教職員に対して献血事業への興味・関心を深め、献血活動へ協力してもらうことを目的とし、学内周知に力を入れた。

(2) 「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成

「地域に開かれた大学」を目指した活動の一環として、平成 21 年度から作成し、大学見学受入やイベント等の際に配布し、好評を得ている。平成 24 年度は内容の整理と地図内の表示をよりわかりやすくなるよう改訂を加えた。



地域防災部門

地域防災部門長あいさつ

地域創生センター地域防災部門長・准教授
水田 敏彦

秋田大学地域創生センター地域防災部門は平成 23 年 9 月に設置され、1 年半が経過いたしました。この間、当部門は秋田県内各自治体および地域の皆様の防災活動を支援する窓口として活動してまいりました。

センターの地域防災部門の活動内容は、①秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査研究、②防災について地域で活動できる人材の育成、③県及び市町村への防災施策に関する指導助言に関することの 3 つが掲げられています。

地域防災部門の発足以来、お陰様で、順調に事業・活動実績を積み重ねることができました。ここに関係各位に深く感謝申し上げる次第です。本年度からは、秋田県教育委員会からの支援を受けた事業として、県内の幼保小中高等学校における防災教育出前授業を 26 校で実施しました。これは、正しい知識を持ち、災害が発生した場合避難することができる児童・生徒を育てることを目的としているものです。人材育成関係では、大仙市と国立大学協会からの支援を受け「地震災害における防災人育成シンポジウム～東日本大震災の教訓をスタートとして～」も開催いたしました。また、平成 24 年 4 月より秋田大学のホームページに「あっきーくんの防災 ABC」を開設し、地域防災部門の教員 3 人と地域創生課の職員が防災に関連するコラムを執筆し情報発信をはじめています。災害の調査・研究関係では、「潟上市における地域防災・減災に関する調査研究－過去の津波履歴から潟上の防災・減災教育を考える（潟上市受託研究）」、「秋田県沿岸市町村への津波に関するアンケート調査」など、多くの調査・研究を行っています。

このような地域創生センター地域防災部門の 1 年間の活動をまとめたのが、本年報です。みなさまの忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

2. 1 秋田県の特性を考慮した 地域防災のあり方に関する調査研究

(1) 強震計を用いた地震観測記録

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

特に秋田市における地震災害の防災・被害軽減化に貢献する、秋田大学手形キャンパスにおける地震観測を実施し、地震災害危険度について検討を行った。

(2) 秋田県沿岸市町村への津波に関するアンケート調査

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

日本海側に位置する秋田県は、東日本大震災における津波被害を重い警告として受け止めなければならないと考え、秋田県沿岸市町村自治体、または住民の意識についてアンケートを実施することとした。自治体は八峰町、能代市、三種町、男鹿市、潟上市、秋田市、由利本荘市、にかほ市、大潟村（9市町村）を対象とし、10項目にわたるアンケートを実施し、全ての市町村から回答を頂いた。結果については、12月26日～27日の平成24年度東北地域災害科学研究集会（弘前大学）において発表した。また、その報告は「秋田県沿岸市町村への津波等に関するアンケート調査について」と題して、平成24年度東北地域災害科学研究論文集に掲載予定である。なお、平成25年度には秋田県沿岸市町村の住民を対象にして津波に関する意識調査を行う予定である。

(3) 緊急地震速報装置設置による精度等研究

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

緊急地震速報は気象庁が地震が到達する事前警報としてテレビ、ラジオ、携帯電話等などの受信端末装置に知らせる機能である。本件の場合学校や自主防災組織等での現場における防災教育などに適用すべく方法を研究する他に、この機能がP-S波時間差を利用していることから近距離における場合は誤差が出るのは必至である。この点での欠点を多数の観測点でカバーする、または精度を高める方法を検討することが必要である。特に自身の生活圏で本装置を使用して多くのデータの収集が大事である。そこで当センターでは秋田県で受信端末を長年実施して実績のある許可事業者の(株)秋田ケーブルテレビと契約し、2012年から端末装置（震度3以上）を地域防災部門研究室に設置して観測を続けることとした。2013年3月10日現在までには2012年12月7日17:18発生の三陸沖（牡鹿半島の東240km付近）での地震（M7.3、最大震度5弱、秋田市河辺・雄和震度4）が最初で1度のみである。秋田県沿岸では震度3以上の地震の観測は困難ではあるが、緊急地震速報装置の意味からもやむを得ないところもあると考えられ、今後更に観測検討を続けたい。尚、2012年に秋田大学本部管理棟1階に加速度計内蔵ネットワークセンサが設置され、地震及び常時微動の観測が可能になり、当部門研究室で波形等をリアルタイムで見られることになって、本緊急地震速報端末装置と連動することにより、本研究が一層有益に進むことが期待される。

(4) 「潟上市における地域防災・減災に関する研究

ー過去の津波履歴から潟上の防災・減災教育を考える」(受託研究)

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

潟上市は日本海に面して標高の低い土地が広がっており、日本海側で巨大津波を伴うような地震が発生した際に、大きな津波被害を受けると想定される。この研究では、過去に潟上市地域に被害を与えた津波に関する情報を取得、解析し、その結果を公表することで、住民の防災意識の高揚を促すことを目的とする。潟上市の6地点で簡易ボーリング調査をおこない、過去の津波によって形成された地層、すなわち津波堆積物の有無を調べた。その結果、今回の調査地点からは明瞭な津波堆積物は見いだされなかった。しかしながら、潟上市の沖合で1983年日本海中部地震クラスないしはそれ以上の規模の地震が発生した場合、潟上市に津波被害が生じることが想定されるため、住民の防災意識高揚に資するためにも本研究を継続することが重要である。来年度は別の地点での津波堆積物調査を実施する予定である。

(5) 東日本大震災後における秋田大学の対応取りまとめ

実施期間 通年

担 当 秋田大学地域創生センター

東日本大震災以降に秋田大学が実施した、本学あるいは被災地での支援等について取りまとめた。

(6) 津波痕跡調査

実施期間 通年

場 所 八峰町、男鹿市、潟上市、にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

秋田県の地震被害想定調査に含まれている「津波堆積物調査」に参画した。八峰町、男鹿市、潟上市、にかほ市で数地点の調査候補地を確認した。その結果、それぞれの地点で概査を行い、津波痕跡の有無を調べることとした。現地調査は、秋田県の地震被害想定調査を請け負った中央開発・奥山ボーリング共同企業体を実施するが、自身の研究テーマでもあることから調査には適宜同行し、指導・助言を行う。

(7) 秋田県における古地震研究に関する情報収集、意見交換

実 施 日 平成24年4月16日(月)～4月17日(火)

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

東京大学地震研究所の研究者と古地震研究について情報、意見交換をおこなった。東大をはじめとした他の研究機関で、今年度実施する予定の活断層および古地震に関する研究についての情報交換をするとともに、今後センターで進める調査・研究についての概要を説明した。

(8) 釜石市・南三陸町被災地学校調査

実 施 日 平成24年5月13日(日)

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

日本安全教育学会研究集会の参加者と共に被災地巡検を行った。東日本大震災で甚大な被害を受けた釜石市立大川小学校、吉浜小学校、相川小学校、南三陸町立戸倉小学校被害を視察し、当時の状況について説明を受けた。

(9) 日本地球惑星科学連合2012年大会における発表

実施日 平成24年5月20日(日)～5月21日(月)

場 所 千葉県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

『日本地球惑星科学連合2012年大会』に参加し、「津波堆積物」「東北地方太平洋沖地震」「津波」分野の講演を中心に聴講し、他大学および研究機関の研究者と秋田県における古地震・古津波研究について意見交換をおこなった。特に「津波堆積物」のセッションでは、「国内の津波堆積物研究における調査項目の整理」というタイトルで発表を行い、過去の津波を評価するために必要な調査項目について提示し、多くの研究者と議論した。また、発表内容とは離れるが、日本海側における「過去の津波に関する研究」は今までほとんどおこなわれていないため、現在進めている「秋田県沿岸域の津波痕跡調査・研究」について、多くの方々に興味を示していただいた。

(10) 歴史地震研究大会における発表

実施日 平成24年9月14日(金)

場 所 神奈川県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

『第29回歴史地震研究会』に参加し、「1914年秋田仙北地震の人的被害に関する資料について」と題した研究発表を行った。

(11) 世界地震工学国際会議における発表

実施日 平成24年9月21日(金)～9月30日(日)

場 所 ポルトガル

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

『第15回世界地震工学国際会議』に参加、「Development of earthquake risk assessment system using GIS for snow country (GISを利用した積雪寒冷地の地震災害危険度評価システムの開発)」と題した研究発表を行った。

(12) 東北地域災害科学研究集会における発表

実施日 平成24年12月26日(水)～12月27日(木)

場 所 青森県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

『H24年度東北地域災害科学研究集会』に参加、「秋田県の歴史地震の教訓を防災教育教材にする試みーその2 1914年秋田仙北地震を事例としてー」と題した研究発表を行った。

(13) 東北地域災害科学研究集会における発表

実施日 平成24年12月26日(水)～12月27日(木)

場 所 青森県

担 当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

当集会に参加し、27日は野越三雄・佐藤考司による「秋田県沿岸市町村への津波等に関するアンケート調査について」を発表した。

2. 2 防災について地域で活動できる人材の育成

事業数：67回
(講演会等35回, 出前講義32回)
参加者：8,684名
(講演会等4,174名, 出前講義4,510名)



●事業内容

県内各幼保小中高等学校、自主防災組織等での防災授業、講演会等を実施した。教育機関における出前授業においては、防災教育は早い段階からの意識啓発が重要であることから、講義に加え、建物倒壊実験及び津波発生実験を行うことにより体験による理論の把握を促した。また自主防災組織を対象とした講義では、発災時に自主防災組織リーダーあるいは町内会が取るべき行動と、地域住民における日頃からの防災意識の喚起、避難所運営の際の注意点などを述べた。

●事業成果と課題

年度内67回の実施により、約8,700名の受講者となった。今後は各学校の教員に対する防災教育を実施し、各学校単位で不断に防災教育ができるようにする。

実施事業

1) 講演会等

(1) 「東日本大震災被災地・被災者の集い」講演

実施日 平成24年4月28日(土)

場所 大仙市

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 800名

東日本大震災への今後の支援のあり方や強いまちづくりについて考えることを目的として開催。水田地域防災部門長は、大仙市近郊で過去に発生した2つの大地震(陸羽地震、秋田仙北地震)について、発災当時の写真や古文書をもとに、それぞれの地震の特徴や発災時における住民の行動を解説し、地震は繰り返して発生することを忘れず、過去の経験を教訓とした地震対策を考える必要があることを述べた。

(2) 「秋田土壌浄化コンソーシアム平成24年度講演会」講演

実施日 平成24年5月31日(木)

場所 秋田大学

担当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 15名

「地層に記録された海溝型巨大地震の歴史と地震防災・減災について」と題し講演。地震・津波の基礎や過去に日本に被害をもたらした地震津波について解説。また、津波堆積物調査の調査方法や利点についても解説し、津波堆積物調査は、過去の地震歴を明らかにし、今後の地震発生確率等を算出する上で重要な役割を担っていることを説明した。

(3) 「大曲自然友の会大学訪問」講演

実施日 平成24年6月19日（火）

場 所 秋田大学

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 40名

大学訪問のプログラムの一つとして、自然災害に関する講義を実施した。地震や津波の基礎事項や秋田県で過去に被害をもたらした地震・津波などについて解説し、今後いつ発生するかわからない災害に対して、普段から備えておくことの重要性について説明した。

(4) 「男鹿市若美町 若美コミュニティー推進協議会」講演

実施日 平成24年7月17日（火）

場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 20名

「東日本大震災と秋田の地震と対策について」をテーマに、男鹿市若美地区の町内会長、各種団体の代表者等を対象とした講演。東北地方太平洋沖地震を含め世界中で過去に発生した超巨大地震について解説し「過去の災害を風化させず、地震、津波に興味を持ち続けることが大事」と説明した。また、1983年に発生した日本海中部地震で液状化被害の大きかった若美地区の当時の写真をもとに、液状化現象の再発について注意を促した。

(5) 「第13回秋田備蓄フォーラム」講演

実施日 平成24年7月20日（金）

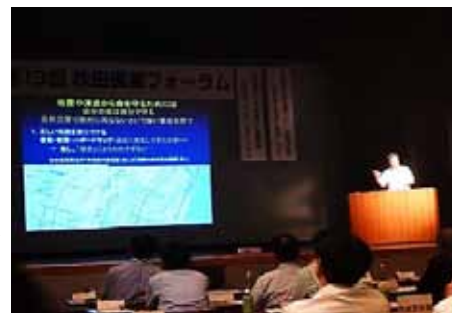
場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 200名

「男鹿半島周辺における震災の歴史と地震防災・減災活動について」と題し、「今後大規模地震が発生した場合の被害や発災時の対応等を説明した。

さらに男鹿半島周辺における地震・津波災害の発生について、「過去に秋田県近郊で発生した地震災害を教訓とし、内陸型直下地震および日本海東縁域の連動地震を想定しておかなくてはならない」と注意を促した。



(6) 「平成24年度北秋田地域振興局自主防災リーダー研修会（大館市）」講演

実施日 平成24年7月26日（木）

場 所 大館市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 45名

≫人材の育成

大館市、北秋田市の自主防災組織リーダー、町内会長等を対象として実施。「地域をキーワードとした地域防災～自主防災組織について～」と題し、秋田県、特に北秋田地区で過去に発生した地震災害について解説し、自主防災組織の活動を含めた助け合いを個人、行政等で総合的に行うことが大事であることを説明した。

(7)「秋田県自主防災アドバイザー養成研修」講演

実施日 平成24年7月26日(木)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 30名

秋田県自主防災アドバイザー予定候補者 11 名に対し「秋田県の災害史、今後予想される災害とその対策」と題して講演。秋田県における過去の地震災害や地震と津波のメカニズム、地震被害想定と防災・減災活動について説明した。

(8)「男鹿市教育委員会講演会」講演

実施日 平成24年7月27日(金)

場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 200名

男鹿市内の小中学校教職員を対象とした講演。過去の地震災害の研究から男鹿市で発生すると予想される地震のタイプを解説し、あらゆる想定のもとに対策を講ずる必要があることについて説明した。さらに釜石市で日頃から行われている避難訓練について解説し、参加者の学校においても、不断に防災教育を実施することについて提言した。

(9)「美郷町自主防災組織研修会」講演

実施日 平成24年7月27日(金)

場 所 美郷町

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 100名

美郷町民約 100 名を対象とし、「自主防災組織における地震防災・減災活動を考える」と題し講演。自主防災組織においては地域と住民が共に助け合う「共助」の重要性、自地域における弱点を知り、長期的な視点から被害を減少させるための対策を講じる重要性等について説明した。さらに、1896 年の陸羽地震をについて、被害規模と美郷町付近の活断層について解説し、今後起こりうる地震災害に対して、正しい知識のもとに備え対処することについて提言した。

(10)「平成24年度北秋田地域振興局自主防災リーダー研修会(北秋田市)」講演

実施日 平成24年8月1日(水)

場 所 北秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 45名

「自主防災組織における地震防災・減災活動を考える～地域防災力の向上を目指して～」と題し、能代断層帯、花輪東断層帯など北秋田市周辺に存在する活断層について解説し自主防災組織を中心とした日頃からの防災対策の重要性について説明した。

(11)「秋田市教育委員会研修会」講演

実施日 平成24年8月8日(水)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 15名

秋田市小中学校教員を対象に、防災・減災のための対応を考えることを目的とする講演。水田地域防災部門長は「東日本大震災に学ぶ実践的な防災教育」と題し、地震・津波の基礎事項のほか、秋田市内で過去に発生した地震災害や東日本大震災における被害や避難の事例を紹介し、被害が拡大した原因や被害を受けずに済んだ理由について説明。また、野越地域防災アドバイザーは「東日本大震災と秋田の地震と対策について」と題し、過去に発生した地震被害の写真や地形図を用いながら、地震・津波の発生の仕組み等を解説した。

(12)「秋田市自主防災組織総会」講演

実施日 平成24年9月27日(木)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 30名

秋田市内の自主防災組織リーダーを対象として「地域における防災とは～自主防災組織のあり方について～」と題し講演。

地震災害発生への対策として「自助」「共助」「公助」がそれぞれの立場で活動し連携していくことが重要であることを前提としながらも、特に大事と考えられる「自助」に繋がるとして、地域住民が地震災害について興味・関心を持つこと、地域の地理的状況の把握や危険箇所をあらかじめ調べておくことなどを説明した。

(13)「鶴岡地区私立幼稚園連合会安心・安全な幼稚園づくり支援事業教育」講演

実施日 平成24年10月2日(火)

場 所 山形県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 55名

山形県鶴岡市の私立幼稚園の教職員を対象とした講演。「地震や津波から命を守るために」と題し災害から命を守るために「正しく知ること、備えること、対処すること、イメージすること」が重要だと説明。また過去に発生した地震災害や地震・津波の仕組み、今から備えておくべき事項について解説した。さらに、日本海中部地震の際に津波被害を受けた秋田県の小学校や、東北地方太平洋沖地震の際に津波から逃れた岩手県の小学校を例に、防災に対する知識や日頃の訓練の有無に左右されるところが大きいと説明し、参加者が所属する幼稚園において、防災頭巾の活用や危険箇所のチェック、避難方法・場所の再確認の実施を促した。

≫人材の育成

(14)「秋田市のまちづくりを考えるシンポジウム」パネルディスカッションパネラー

実施日 平成24年10月21日(日)

場所 秋田市

担当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 20名

生活・福祉の向上、安全・安心な街づくりの促進などを観点とし「住みやすく元気のある秋田市」を目指すことを目的として実施。パネラーは、野越地域防災アドバイザーの他、荒谷紘毅氏(秋田人変身力会議会長)、大森サツ子氏(ひきこもり親の会世話人)、小山澄子氏(環境カウンセラー)、佐々木修氏(秋田市都市整備部都市計画課長)が参加し、秋田市の経済活性化、まちづくりへの希望などについて意見交換した。野越地域防災アドバイザーは、「秋田市(県)は防災都市宣言を！」をテーマに、秋田県で過去に発生した地震災害を踏まえた、これからの市民、町内会、行政の防災対策について「国または県による防災対策(公助)あるいは、町内会組織による防災対策(共助)のほか、住民一人一人が意識を高く持ち災害に備える(自助)ことが重要」と発言した。

(15)「地震防災における防災人育成シンポジウム～東日本大震災の教訓をスタートとして～」

実施日 平成24年10月30日(火)

場所 大仙市

担当 秋田大学地域創生センター

参加者数 257名

大仙市および一般社団法人国立大学協会との共催により、防災・減災活動において、地域で自発的に活動できる人材(防災人)の育成を考えることを目的として開催。県内各自治体職員および一般市民257名が参加した。西木正明本学客員教授(作家)が「災害と文化」と題し国内外あるいは歴史的観点から、地震災害が地域の文化、住民の気質へ与える影響について、また、本田敏秋岩手県遠野市長が「現場主義からの被災地後方支援」と題し東日本大震災において遠野市が実施した沿岸被災地への後方支援活動について、それぞれ講演した。講演後には、水田敏彦地域防災部門長をコーディネーターとし、講演した二氏のほか、栗林次美氏、郡山茂樹氏(大仙市総務部次長兼防災管理監)、大信田孝文氏(大仙市ボランティア)をパネラーとしてパネルディスカッションを実施。大仙市が取り組んでいる、秋田県における後方支援活動拠点構想や防災における人材育成、ボランティアとして従事した経験等について発言があり、防災人を育成するための、行政あるいは市民それぞれの立場から意見交換、提案などを行った。



(16)「秋田市自主防災組織講演会」講演

実施日 平成24年11月3日(土)

場所 秋田市

担当 秋田大学地域創生センター 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者数 40名

日本および世界で発生している巨大地震の解説、地震発生メカニズムなど、地震における基本的な事項について解説した。また、自主防災組織において、発災時にとるべき行動の具体を説明し、地域で減災のために行うべき行動について詳細に解説した。

(17) 「第2回防災教育指導者研修会」講演

実施日 平成24年11月6日(火)

場 所 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門
准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 400名



大規模災害の発生に備えた防災教育のあり方について研修を行い、児童・生徒の防災指導の体制の充実を考えることを目的として開催。県内各幼稚園、小・中学校、高等学校、特別支援学校の教員約400名が参加した。

水田地域防災部門長は「学校における防災教育のあり方」と題し、学校教育現場における防災や、災害時における学校・教員の対応等について講演した。防災訓練は繰り返し行うことにより、災害発生時に身についた知識として活かされること、災害が発生した場合に教員が実施することまたはしないことについて説明し、児童・生徒の命を守るために、日頃から地域住民と防災、避難所運営等について話し合っておく必要性について説明した。

(18) 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～
(県南地区フォーラム)」パネルディスカッションコーディネーター

実施日 平成24年11月10日(土)

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 240名

秋田県教育委員会主催事業。学校が地域住民や地域のあらゆる団体と連携することで、防災における教育体制の整備を図ることを目的とし、小中高等学校教員、地域住民、地域の学校安全ボランティア等を対象に、県南、中央、県北地区の3カ所を会場として開催。第1回目は県南地区会場で開催し約240名が参加した。

パネルディスカッションは「学校における防災教育と地域連携の在り方」をテーマに、パネラーに青谷晃吉氏(大仙市中仙中学校長)、高橋誠氏(雄勝中学校PTA副会長)、加賀谷長吉氏(横手市本町下丁自主防災組織事務局)、菊地俊宏氏(横手市消防本部警防課警防係長)を迎え実施。パネラーからは県南地区であることから積雪時の避難訓練の実施を検討していること、地域で助け合う「共助」よりも範囲を狭めた近隣住民で助け合う「互助」について発言があった。さらに、地域との連携を図る具体策として、住民のみならず地区で組織されている消防隊との連携が必要であることなどについて発言があった。

(19) 「地域防災セミナー～地域住民の手による災害に強いまちづくり～」
パネルディスカッションコーディネーター

実施日 平成24年11月11日(日)

場 所 北秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 160名

▶人材の育成

災害時に地域住民が支え合い、災害に強いまちづくりを促進することを目的として開催。市民約 160 名が参加した。パネルディスカッションは、「地域防災の強化に向けて地域でできること」をテーマに、江尻東磨氏（柏崎市北条地区コミュニティー振興協議会会長（新潟県））、松橋悦治氏（大阿仁地区中央連絡協議会会長）、山田金成氏（前田駅前自治会長）、貝森登氏（大館市立第二中学校長）、小助川幸一氏（秋田県防災士会事務局長）を迎え実施した。パネラーからは、「災害時には行政を頼り切りにせず自分達で行動することが必要。そのためには、日頃からスポーツを通じた体力づくりをすること」「仕事の有無により、避難訓練の参加者に偏りがある。多くの人が参加するように意識を変えていくことが必要」などの提案があった。



(20) 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～

（県北地区フォーラム）」パネルディスカッションコーディネーター

実施日 平成24年11月17日（土）

場 所 能代市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 320名

県南フォーラムに引き続き2回目の開催。県北地区の小中高等学校教員、地域住民等 320 名が参加した。パネルディスカッションにはパネラーに竹内秀樹氏（能代第一中学校長）、佐々木晃吉氏（西館小学校 PTA 会長）、照内捷二氏（鷹巣地区高野尻自治会長）、佐藤崇宏氏（能代消防署当直指令）を迎え実施した。パネラーからは「親が防災に対する積極的な姿勢を見せることで子供への防災教育となる」「自分達のまちは自分達で守るという防災意識の高い人材を育成したい」など、防災に対する積極的な発言があった。後半では、消防署あるいは行政の防災担当者からの情報提供が有意義であることや、保護者が学校と一緒に避難訓練をする必要性について提案があった。

(21) 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～

（県央地区フォーラム）」パネルディスカッションコーディネーター

実施日 平成24年11月20日（火）

場 所 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 320名

県南フォーラム、県北フォーラムに引き続き3回目の開催。最終回となる今回は、中央地区の小中高等学校教員、地域住民等 320 名が参加した。パネルディスカッションは、パネラーに六郷博志氏（出戸小学校長）、佐々木克巳氏（秋田県高等学校 PTA 連合会顧問）、伊藤義弘氏（飯田川羽立神明自主防災会長）、宇佐美晃一氏（秋田市消防本部土崎消防署警防主席主査）を迎え実施した。パネラーからは「緊急メール配信システムの整備が必要」「停電あるいは混線の場合の対策も考えておく必要がある」など、災害時の対策について具体的な意見交換があった。その他「児童・生徒が地域の長所や短所を学ぶことで地域を知ることとなる」と発言があり、児童が地域を学ぶことで災害時の速やかな避難へ繋がることについて話し合われた。

(22) 「潟上市立東湖小学校・天王小学校・天王中学校の小中連絡協議会」講演

実施日 平成25年1月9日（水）

場 所 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 60名

潟上市立東湖小学校・天王小学校・天王中学校の3校による小中連絡協議会における教員を対象とした講演。「東日本大震災から学ぶ学校の防災対策と秋田県で発生した歴史地震」と題し地震・津波の基礎知識、東日本大震災による学校の被害と対応等について解説した。また、潟上市周辺の歴史地震について、1939年の男鹿地震および1983年の日本海中部地震を取り上げ、特徴と被害状況を解説した。この講演により、子どもへの防災教育をはじめ、避難所運営のあり方や地域との連携の仕方などについて考える機会となった。

(23) 「SSN 秋田学生復興支援ネットワーク活動報告会」講演

実施日 平成25年1月19日（土）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 20名

SSN（秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学の学生ボランティア団体）が主催する活動報告会。秋田県における防災・減災対策の構築を述べた。秋田県では、内陸直下型地震や秋田県沖の地震空白域での地震、遠方で発生した地震による津波被害に注意する必要があることを解説した。参加者は具体的な被害の可能性を知り防災意識を新たにしているようであった。また、雪国ならではの地震被害、秋田県での防災教育などについて質問があったことから、防災・減災活動への関心の高さがうかがえた。

(24) 「全県損害保険代理店研修会」講演

実施日 平成25年1月25日（金）

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 30名

秋田日新会（日新火災海上保険秋田サービス支店と同支店の代理店）社員研修会において「秋田県における地震災害と地域防災について」と題し講演。地震・津波発生の基礎的な内容から、秋田県で過去に発生した地震被害について解説し、地震は繰り返すこと、何処にいても発生することを想定しておくことが重要であると述べた。さらに、秋田県沿岸部における津波の高さ、到達時間など、津波災害における最新の研究内容を紹介し、今後秋田県で災害が発生した場合における状況について具体的に説明した。

(25) 「第7回自治会（町内会）役員研修会」講演

実施日 平成25年2月24日（日）

場 所 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 200名

標記研修会にて「津波浸水想定の見直しと潟上市の地震防災・減災について」と題し講演をおこなった。講演で

≫人材の育成

は、12月に秋田県が公表した津波浸水想定の潟上市における浸水深および津波到達時間等の説明、潟上市における地震防災・減災対策について、秋田県で過去に発生した地震や津波等を説明した。潟上市は日本海に面し、また標高の低い場所に住宅があることから、津波災害の危険を常に考えておく必要があり、家族で避難先や避難方法などについて話しあうこと、地震発生あるいは津波の発生が予想される場合は躊躇なく逃げること等を述べた。当日は大雪で交通機関が乱れる中、多数の参加者が参加したことから、住民の防災意識が高くなってきているとみられる。

(26)「仙北公民館主催防災講話」講演

実施日 平成25年3月11日(月)

場 所 大仙市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 18名

仙北地区の老人クラブ・婦人会で構成されるあじさいキャンパスのメンバー18名を対象に「地域と家族を守るための地震防災・減災活動について」と題し講演。地震被害想定や防災・減災活動などについて説明をし、昨年末に発表された秋田県における津波浸水想定データにより、内陸に位置する大仙市であっても沿岸付近にいる時に地震が発生する可能性もあることから、居住地域を問わず津波に対する備えが必要であることを説明した。東北地方太平洋沖地震では想定を上回る大規模な地震・津波被害があったことから「想定以上の災害から身を守るためには“自助”が最重要となる。行政の力だけに頼るのではなく、住民一人一人が主役であることを自覚し行動してほしい」と述べた。

(27)「由利本荘市大ノ道町内会22班3組」防災講演

実施日 平成25年3月16日(土)

場 所 由利本荘市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 20名

由利本荘市大ノ道町内会22班3組の町内会を対象に「地震や津波から命をまもるために」をテーマとして講演した。「地震は繰り返すこと、日本中どこでも発生することを忘れないで欲しい」と津波被害対策の基本的な事項について説明した。由利本荘市が沿岸部に位置する市であることから、参加者は津波の発生と避難について真剣に考えており、映像で見る津波の威力と実際の実験で見る水の流れにより、地域の津波被害を想像し、これからの対策について考えているようであった。

(28)「平成24年度自主防災組織育成指導者研修会」講演

実施日 平成24年12月17日(月)、12月20日(木)

平成25年1月18日(金)、1月21日(月)、1月23日(水)、

1月28日(月)、1月30日(水)、2月1日(金)

場 所 鹿角市、大館市、大仙市、羽後町、由利本荘市、秋田市、にかほ市、横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

准教授 鎌滝孝信

参加者数 計474名

県内各市町村の町内会長、防災担当者等を対象として開催。地震・津波における自然災害の基礎的内容や自分達が住んでいる地域を調べることで危険箇所あるいは防災施設設備、地域特性などを把握することができることについて説明した。

参加者からは、厳冬期に災害が発生した場合の対処、要介護者の避難など、地域特性に応じた質問があり、地区の特性に応じた防災・減災対策を真剣に考えている様子がうかがえた。



2) 出前講義

(1) 「防災教育外部指導者派遣事業」出前事業

実施団体

湯沢市立横堀小学校	7月3日	大仙市立藤木小学校	10月11日
大館市立成章小学校	7月6日	鹿角市立尾去沢小学校	10月17日
大館市立田代中学校	7月10日	美郷町立六郷小学校	10月18日
秋田市立下北手小学校	7月10日	にかほ市立仁賀保中学校	10月25日
にかほ市立平沢小学校	7月13日	相愛保育園	11月13日
秋田市立御野場中学校	8月30日	大館市立早口小学校	11月15日
秋田市立土崎南小学校	9月4日	秋田修英高等学校	12月12日
潟上市・南秋田郡教育委員会	9月5日	男鹿市立船川第一小学校	12月13日
横手市立鳳中学校	9月19日	ウエルビュ-いずみこども園	12月18日
横手高等学校定時制課程	9月20日	秋田市立岩見三内小・中学校	1月24日
秋田市立八橋小学校	9月27日	大館南が丘幼稚園	2月14日
由利本荘市立鳥海中学校	10月2日	勝平幼稚園	2月18日
矢島高等学校	10月3日	扇田幼稚園	2月21日

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門
 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信

参加者 計3,257名



秋田県教育庁が主催する事業。県内の幼保小中高等学校において出前授業、防災訓練指導等を実施し、今後災害が発生した場合においても、正しい知識を持ち避難することができる児童・生徒を育てることを目的とした。

≫人材の育成

(2)「御所野学院中学校大学訪問」時模擬授業

実施日 平成24年7月19日(木)

場 所 秋田大学

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 30名

進路を考え学習に対する意識を高めることを目的とした「自分探求学」の一環として訪問。地震防災をテーマとした模擬授業では、地震のメカニズム、家屋の構造によって揺れ方に差が出ること等について解説した。

(3)「横手城南高等学校における高大連携」出前授業

実施日 平成24年8月28日(火)

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 20名

横手城南高等学校を会場に、秋田県内外の高等教育機関から講師を招いて授業を行う「高大連携授業」の一つとして「横手市周辺で発生した地震のはなし～被害の教訓を学ぶ～」と題し授業を行った。陸羽地震、秋田仙北地震という大規模地震が発生している当地に特化した授業を行った。当時の新聞記事や被害分布図、全潰した家屋の写真等から被害の大きさを説明し、鉄道や電話の開通状況により発災後の救護活動の違いや、積雪の有無により、地震災害時に大きな影響があることについて解説し、降雪量の多い当地での対応について説明した。

(4)「課題研究推進(防災教育に関する研修会)」出前授業

実施日 平成24年9月7日(金)

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 93名

浜田小学校全校児童および PTA を対象として「地震や津波からいのちを守るためには」をテーマに実施。地震や津波が発生した場合は、指示されなくても自身で考え行動できるようになること、そのためにも避難訓練を真剣に行うことが重要であることを説明した。さらに、地域における地震防災について地域住民が考える必要があり、過去の地震災害を学び地域の弱点を把握することが対策を講じるための一歩であることを説明した。



(5)「横手南中学校」出前授業

実施日 平成24年9月12日(水)

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 520名

横手市立横手南中学校全校生徒を対象として「地震・津波から命を守るために」をテーマに講義した。横手市付近に存在する活断層により、いつ地震が発生するか分からないため普段から備えておくことが大事であることを説明した。また、秋田県内で過去に発生した地震災害を紹介し、横手市で地震が発生することを想定し、避難場所などを日頃から考え対応できるようにしておくことが必要であると説明した。

(6)「平成24年度高校生未来創造支援事業プロフェッショナル(大学教員)の活用事業」出前授業



実施日 平成24年10月4日(木)

場 所 大館市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門

准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者数 368名

「秋田県で発生した地震のはなし～被害の教訓を学ぶ～」をテーマに授業を実施した。地震発生の仕組みやエネルギーの大きさ、大館市に近い二ツ井町で過去に発生した二ツ井地震や昨年4月1日に発生した秋田県内陸北部地震について詳しく説明し、専門的(高度)な講義を行った。

(7)「雄勝工業高等学校」出前授業

実施日 平成24年11月20日(火)

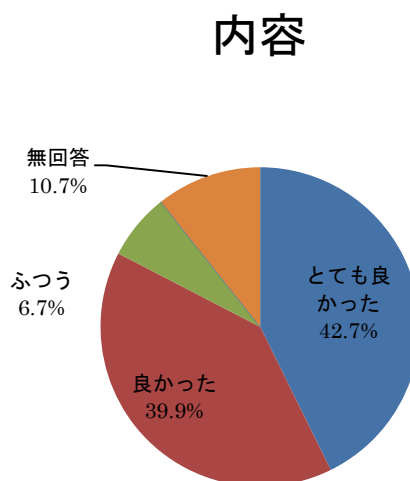
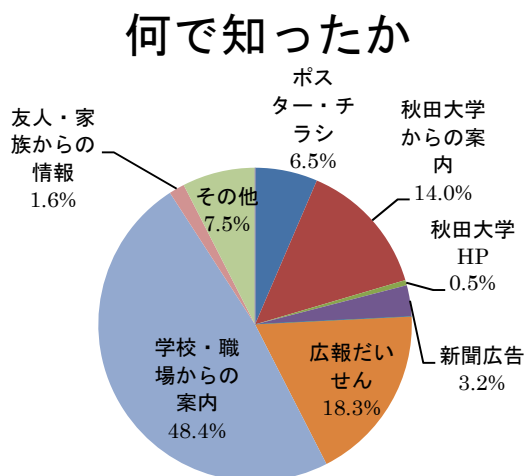
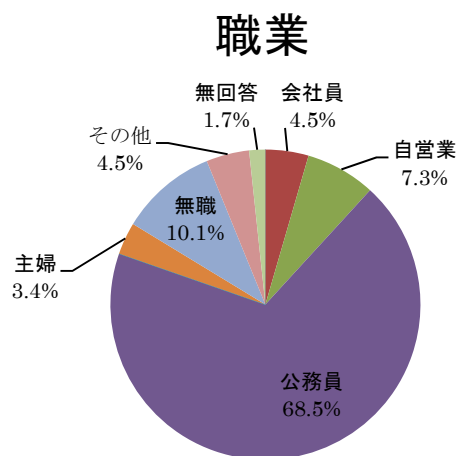
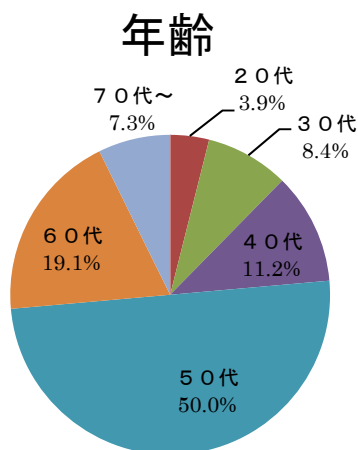
場 所 湯沢市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者数 222名

全校生徒222名を対象として「『地震』や『津波』から『命』を守ろう!」をテーマに授業を実施した。雄勝高等学校がある湯沢地区付近にも活断層が存在することから、秋田県でも大規模地震を想定し対策を講じる必要があると説明した。

「地震防災における防災人育成シンポジウム～東日本大震災の教訓をスタートとして～」
アンケート集計結果



訪問者数 257名
アンケート回答者数 178名
(回収率69.3%)

■参加者の声

- ・「現場の判断」ということ、「それをせめない」というお話しが心に残った。何にでもあてはまることと思います。
- ・大仙市で行った支援について身近に話を聞けてよかった。防災を考える、普段からの備え、地域の人々のコミュニティ、発生した後の支援、法だけにたよれない自主的な活動の大切さを改めて感じた。
- ・さまざまな立場の方々の防災・減災に関する考えが参考になった。コミュニティの果たす役割の大切さを実感した。

■アンケート分析

満足度調査では「とても良かった」「良かった」が80%以上を占めている。また、自由記載アンケートでは、「多面的に考えることができた」「日頃から防災について考えておくことが大切であることわかった」などの意見が多かった。以上のことから、当該シンポジウムが防災・減災について、再度認識する機会になったものと考えられる。一方では、「防災人育成のタイトル（テーマ）に即していなかった」という意見もあったことから、今後の開催においては、テーマから外れることのないようにしたい。

2. 3 県及び市町村への防災施策に関する指導助言

指導助言を行った自治体数：8自治体
(秋田県、秋田市、横手市、大館市、男鹿市、
潟上市、にかほ市、美郷町)



●事業内容

秋田県あるいは県内各自治体における委員会等へ委員として参画し、学術的見地からの指導・助言を行った。

●事業成果と課題

秋田県地震被害想定調査の公表、秋田県沿岸津波対策検討会における検討結果の公表に委員として参画した。さらに、各自治体における防災会議等においても、学術的見地からの指導・助言を行った。

実施事業

1) 委員会参画

(1) 秋田県地震被害想定調査委員会および専門部会

実施日 通年

場 所 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

秋田県の地震被害の想定並びに地震防災対策を推進するために必要な助言及び検討を行った。

(2) にかほ市地域防災計画策定等委員会

実施日 通年

場 所 にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
准教授 鎌滝孝信

にかほ市では、地域防災計画の見直し作業に向けて、広く市民の意見を汲み上げるため、市民の代表者を委員とした「にかほ市地域防災計画の見直しに係わる市民会議」を3回実施した。市民会議に有識者として参加し、「にかほ市周辺における地震・津波について」の講話や「秋田県地震被害想定調査の津波浸水想定」の説明等をおこなった。また、それに関連した一般市民向け講演会の講師も務めた。にかほ市は沿岸に面した低地に人口の半数近くが集中しており、本件の津波対策を考える上でのモデル地区のひとつと考えられ、来年度も積極的に同市総務部防災課および防災センターに関わっていく予定である。

(3) 秋田県防災教育推進委員会

実施日 通年

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

東日本大震災を踏まえ、防災教育における研修・情報・地域連携の充実を図ることにより、系統的・計画的な取組を推進することを目的とした委員会。自分の命は自分で守ることができる幼児児童生徒の育成と啓発を図るため、関係機関・各課が連携を図り、今後の防災教育の在り方について検討する。委員会委員長として参加。

(4) 秋田県再生エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会

実施日 通年

場 所 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

秋田県の公共施設や地域の防災拠点について、再生可能エネルギー等の導入を推進するために必要な助言及び検討を行った。

(5) 横手市総合雪対策基本計画策定委員会

実施日 通年

場 所 横手市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

市民の積極的な協力も得ながら総合的かつ計画的に雪対策を推進するために必要な助言及び検討を行った。

(6) 美郷町まちづくり交付金評価委員会

実施日 平成24年12月～平成25年3月31日

場 所 美郷町

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

平成20年度から23年度にわたり実施された「まちづくり交付金事業」において、美郷町が実施した防災関連事業の事後評価をおこなうための委員会である。委員長として参画し、計画目標の達成状況、事業の効果等について視察、審議をおこなった。

(7) 秋田県沿岸津波対策検討会

実施日 平成25年1月11日～平成25年3月31日

場 所 秋田県

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

海岸保全施設整備および津波が遡上する区間の河川堤防等の津波対策をおこなうために想定する津波の水位を検討した。

2) 自治体等事業参画

(1) 潟上市防災訓練メニューにおける指導

実施日 平成24年5月8日(火)

場 所 潟上市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信

潟上市が5月26日に実施する総合防災訓練について、助言(想定被害、訓練内容)及び検討を行った。

(2) 青少年科学の祭典出展

実施日 平成24年7月28日～7月29日

場 所 秋田市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信
 地域防災アドバイザー 野越三雄

参加者 50名

「地震による揺れを科学する」「緊急地震速報で訓練しよう」の二ブースを開設し、小中学生への地震防災に関する授業を実施した。建物強度実験では、紙製の模型を参加者一人一人に作成させ実験を行うとともに講義を行った。また株式会社秋田ケーブルテレビの全面的協力のもと、緊急地震速報機による避難訓練を実施した。

(3) 男鹿市ジオパーク学習センター地震防災パネル作成

実施日 平成24年8月1日(水)

場 所 男鹿市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦
 准教授 鎌滝孝信

男鹿市で開設する「男鹿市ジオパーク学習センター」に展示する地震防災パネルを作成し提供した。センター内に設けられる地震・防災コーナーは、当該パネルの他、過去の地震歴史、防災グッズなども展示されていることから、来館者への系統的な注意喚起を促している。

3) 講演会等

(1) 「にかほ市津波浸水被害想定説明会」講演

実施日 平成25年2月18日(月)、2月19日(火)、2月22日(金)

場 所 にかほ市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授 鎌滝孝信

参加者 200名

にかほ市は、昨年末に秋田県が公表した津波浸水想定の見直し結果を受け、市民の津波に対する防災意識を高めることを目的とした説明会を金浦地区(2/18)、仁賀保地区(2/19)、象潟地区(2/22)の3会場で実施した。鎌滝准教授は「津波浸水想定の見直しから地震・減災を考える」と題し、津波浸水想定見直し結果を含めた、にかほ市の防災・減災対策について講演した。日本海に面し、また標高の低い当市は津波災害の危険を常に考えておく必要があることから家族で避難先や避難方法などについて話しあうこと、地震発生あるいは津波の発生が予想される場合は躊躇なく逃げることを述べた。また、今回公表された津波浸水想定の見直し結果について、あくまでも人間が考えた「想定」であることからデータや結果を過信しないことを強調した。

(2) 「産学活性化テクノセミナー」講演

実施日 平成25年2月20日(水)

場 所 大館市

担 当 秋田大学地域創生センター地域防災部門 准教授・地域防災部門長 水田敏彦

参加者 30名

秋田県北部の企業を対象とした「産学活性化テクノセミナー(主催:本学産学連携推進機構、秋田県北部テクノセミナー)」に「雪国秋田の地震防災を考える～雪+地震の複合災害について～」と題し積雪時の地震発生の可能性と積雪寒冷地における地震防災について解説。2004年新潟県中越地震(10月23日発生)では復旧・復興期が積雪と重なり、被災建築物の被害を拡大させたことから、積雪時には道路閉塞率が高くなり救急車両が通れなくなることや救援物資が届かなくなる危険性を解説した。また、屋根の雪下ろしを行うことで建物の倒壊率が低くなること、道路に雪がないようにしておくことが大事であること等を解説し、除雪活動が減災に大きく繋がることを述べた。



參考資料

平成24年度事業実施状況一覧

	事業名	開催時期	会場	対象者、参加者	参加者数	担当部局等	備考
公開講座	【特別コンサート】 がんばろう東北！～秋田の演奏家による楽しい音楽会～(全3回)	24.5.13(日)～10.14(日)	60周年記念ホール	どなたでも	147	教育文化学部 音楽教育講座	第2回7月8日、第3回10月14日 中止
	英語の詩を読んでみませんか？ —対訳で味わう英詩の世界と英国文化 II—(全5回)	24.6.29(金)～7.27(金)	カレッジプラザ	どなたでも	16	教育文化学部 欧米文化講座	
	大人のものづくり(全6回)	24.8.30(木)～10.4(木)	秋田大学	どなたでも	11	工学資源学研究所 機械工学専攻	
	長唄の魅力を味わう(全4回)	24.9.2(日)～9.29(土)	カレッジプラザ	どなたでも	49	教育文化学部 音楽教育講座	
	総合自殺予防学インテンシブコース(全5回)	24.9.28(金)～11.2(土)	カレッジプラザ	行政担当者、保健師	17	医学系研究科 公衆衛生学講座	
	文化の中のインドネシア語(全4回)	24.10.14(日)～11.3(土)	カレッジプラザ	どなたでも	18	教育文化学部 国際コミュニケーション講座	
	睡眠について—保健学の視点から—(全4回)	24.11.7(木)～11.28(木)	カレッジプラザ	どなたでも	28	医学系研究科 保健学専攻	
声楽講座 一発声法と歌唱法—	25.3.3(日)～3.24(日)	秋田大学 インフォメーションセンター	どなたでも	18	教育文化学部 音楽教育講座		
横手分校	【地域交流事業】 山内三又地区春祭り参加、わらび團火入れ体験	24.5.12(土)～24.5.14(月)	山内三又地区	秋田大学生	18 (学生)		
	横手分校主催 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト 「健康長寿社会のために—あなどれない高血圧・高血圧管理と運動—」	24.10.17(水)	横手市交流センター Y'sふらざ	どなたでも	111	医学系研究科 教育文化学部	
	【地域交流事業】 いぶりばでい 大根収穫・漬け込み作業	24.11.11(日)	山内三又地区	秋田大学生	17 (学生)		
	平成24年度 大学生・高校生教職体験プログラム 教育ミニミニ実習	24.12.26(水)～28(金) 25.1.9(水)～10(木)	横手市立横手南中学校	秋田大学生	4 (学生)		
	中学生科学教室 「カラフル・ケミストリー 色と化学の不思議な関係」	24.1.8(火)	秋田県立横手高等学校 青葉館	中学生	20 (定員)	工学資源学研究所	
【地域交流事業】 いぶりばでい 模開け作業	24.2.3(日)	山内三又地区	秋田大学生	10 (学生)			
地域協働部門	【地域交流事業】田んぼアート 田植え参加	24.5.26(土)	北秋田市	秋田大学生	6 (秋大生)	秋田県北秋田地域振興局、北秋田分校	
	秋田北鷹—BMプロジェクト	通年	北秋田市			秋田北鷹高等学校 家庭クラブ、北秋田市教育委員会、北秋田分校	
	第50回「阿仁の花火大会と灯籠流し」記念アトラクション 秋田大学よさこいサークル「よさとせ歌舞隊」参加	24.8.16(木)	北秋田市	秋田大学生	21 (学生)	秋田大学よさこいサークル「よさとせ歌舞隊」	北秋田分校後援
	【北秋田分校教養セミナー】 第1回 プータン王国から学ぶこと～真の幸せとは～	24.9.20(木)	北秋田市文化会館	高麗大学生、一般市民	250 (定員)	国際交流センター	
	【地域交流事業】田んぼアート 稲刈り参加	24.10.14(日)	北秋田市	秋田大学生	4 (学生)	秋田県北秋田地域振興局、北秋田分校	
	北秋田市こども科学教室 「おもしろ理科実験 サイエンススクール」	24.10.27(土)	北秋田市立鷹巣中学校	小中学生、保護者	400	工学資源学研究所	
	大館・北秋田理科研究発表会「わくわく子ども科学教室」	24.11.18(日)	大館市立有浦小学校	小中学生、保護者	300	工学資源学研究所	
	【北秋田分校教養セミナー】 第2回 秋田のことば—老人(シニア)と若者の—	24.11.21(水)	秋田北鷹高等学校	どなたでも	130	教育文化学部 日本・アジア文化講座	
	北秋田分校主催 メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト 「健康長寿社会のために—あなどれない高血圧・高血圧管理と運動—」	24.11.21(水)	秋田北鷹高等学校	どなたでも	190	医学系研究科 教育文化学部	
	平成24年度北秋田市チョコボラ・プロジェクト 第2回「ふるさとの未来・再考！」フォーラム	24.12.1(土)	北秋田市交流センター	どなたでも		北秋田市教育委員会 北秋田分校	北秋田分校共催
「キャンドルストリートinあに」参加	25.2.23(土)～24(日)	北秋田市阿仁	秋田大学生	12 (学生)	北秋田分校	北秋田分校後援	
自治体連携関係	【地域交流事業】 男鹿市加茂青砂地区「かもあおさで鯛まつり」	24.5.26(土)	男鹿市かもあおさ英学校	秋田大学生、地域住民	学生5名 住民24名	教育文化学部	
	美郷町「水のコンサート」	24.10.4(木)	美郷町立美郷中学校		25名 (学生)	教育文化学部 音楽教育講座	
	潟上市 連携協定記念イベント パネルディスカッション「みんなで考えよう潟上市のまちづくり」	24.10.21(日)	潟上市	一般市民		教育文化学部	
	平成24年度秋田県内三大学連携事業 留学生とおしゃべり Cooking in 男鹿市	24.11.17(土)	男鹿市	小学生、保護者	20 (定員)	秋田大学、秋田県立大学、国際教養大学	
	【地域交流事業】 男鹿市加茂青砂地区「ハタハタ寿司づくりと集落産談会」	24.12.13(木)、17(月) 25.1.13(日)	男鹿市かもあおさ英学校	地域住民	4 (学生)		
	潟上市 連携協定締結式、記念講演会	24.11.20(火)	潟上市	一般市民(記念講演会)	107	教育文化学部(記念講演会)	
大学訪問	大学訪問受入	随時受入			807		27件受入
地域創生センター主催	秋田大学子ども見学デー	24.8.9(木)	秋田大学	小・中学生親子	222	全学	

平成24年度事業実施状況一覧

	事業名	開催時期	会場	対象者、参加者	参加者数	担当部署等	備考
地域創生センター主催	東京サテライト教養セミナー「ブータン王国に学ぶこと～真の幸せとは～」	25.2.8(金)	東京サテライト	どなたでも	44	国際交流センター	
	秋田大学天文台イベント	24.4.21(土) ～ 25.3	秋田大学天文台	どなたでも		教育文化学部	
	秋大憩いのコンサート(全12回)	24.4.21(土) ～ 24.3.23(土)	秋田大学IC	どなたでも		教育文化学部	
	第1回子どもものづくり教室～ブルブルねずみ走らせよう～	24.4.29(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	41	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第2回子どもものづくり教室～パラシュート付き水ロケットを飛ばそう！～	24.5.27(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	48	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第3回子どもものづくり教室ものづくりチャレンジ！手づくり紙飛行機で滞空時間ギネス記録に挑戦！	24.6.24(日)	セリオンプラザ多目的ホール	小・中学生	59	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第4回子どもものづくり教室日本水ロケットコンテスト2012秋田県大会	24.7.29(日)	勝平市民グラウンド	小・中学生	40	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第5回子どもものづくり教室能代宇宙イベントモデルロケット打上体験と宇宙開発の本物見学会	24.8.19(日)	能代市宇宙広場	小・中学生	15	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第6回子どもものづくり教室～ものづくりチャレンジ！エッグドロップコンテストに挑戦！～	24.9.30(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	9	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第7回子どもものづくり教室～太陽の光を電気エネルギーに変えて走る車！手作りソーラーカー～	24.10.27(土)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	9	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第8回子どもものづくり教室～ゆらぎクリスマスキャンドルを作ろう！～	24.11.25(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	34	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第9回子どもものづくり教室～よく弾心スーパースポーツ作り挑戦～	24.12.23(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	32	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第10回子どもものづくり教室～ゴールをめざして歩け！トコトコ君～	25.2.17(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	23	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	第11回子どもものづくり教室～デジタルプログラミング言語「ピスケット」でゲーム作りチャレンジ！～	25.3.17(日)	ものづくり創造工学センター	小・中学生	41	工学資源学研究所附属ものづくり創造工学センター	
	親子環境教室「環境をはかろう。学ぼう。」	24.8.10(金)	工学資源学部4号館	小学生・保護者		工学資源学研究所環境応用化学科	
	秋田大学総合技術部第4回テクノフェスタ	24.12.1(土)	秋田拠点センターアルヴェ	どなたでも		秋田大学総合技術部	
	NPO法人秋田土壌浄化コンソーシアム主催子ども科学教室「土を科学しよう」	24.12.26(水)	秋田大学VBL	小学生・保護者		工学資源学研究所環境応用化学科	
	秋田大学発 FUKUSHIMA こころつなぐプロジェクト					教育文化学部教科教育学講座	
	秋田県内3ジオパーク候補地域への認定申請支援活動					教育文化学部自然環境講座	
	その他	秋田県赤十字血液センターによる献血事業への協力					
「秋田大学キャンパスガイドマップ」の作成							

平成24年度事業実施状況一覧

	事業名	開催時期	会場	対象者、参加者	参加者数	担当部局等	備考
秋田県の特性を考慮した地域防災のあり方に関する調査・研究	強震計を用いた地震観測記録	通年	秋田市 (秋田大学)			水田地域防災部門長	
	秋田県沿岸市町村への津波に関するアンケート調査	通年				野越地域防災アドバイザー	
	緊急地震速報装置設置による精度等研究	通年	秋田市 (秋田大学)			野越地域防災アドバイザー	
	「海上市における地域防災・減災に関する研究 ー過去の津波履歴から海上の防災・減災教育を考える」 (委託研究)	通年	潟上市			鎌滝准教授	
	東日本大震災後における秋田大学の対応取りまとめ	通年				地域創生センター	
	【古地震の調査・分析】 津波痕跡調査	通年	八峰町、男鹿市、潟上市、にかほ市			鎌滝准教授	
	秋田県における古地震研究に関する情報収集、意見交換	24.4.16(月) ～ 24.4.17(火)	東京都 (東京大学)			鎌滝准教授	
	【現地調査】 釜石市・南三陸町被災地学校調査	24.5.13(日)	宮城県			水田地域防災部門長	
	【学会・シンポジウム等参加】 日本地球惑星科学連合2012年大会における発表	24.5.20(日) ～ 24.5.21(月)	千葉県			鎌滝准教授	
	【学会・シンポジウム等参加】 歴史地震研究大会における発表	24.9.14(金)	神奈川県			水田地域防災部門長	
	【学会・シンポジウム等参加】 世界地震工学国際会議における発表	24.9.21(金) ～ 24.9.30(日)	ポルトガル			水田地域防災部門長	
	【学会・シンポジウム等参加】 東北地域災害科学研究会における発表	24.12.26(水) ～ 24.12.27(木)	青森県			水田地域防災部門長 野越地域防災アドバイザー	
	【出前授業】 「防災教育外部指導者派遣事業」	通年	県内	幼保小中高校生	3,257名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
	【講演会等】 「東日本大震災被災地・被災者の集い」講演	24.4.28(土)	大仙市	どなたでも	800名	水田地域防災部門長	
	【講演会等】 「秋田土壌浄化コンソーシアム平成24年度講演会」講演	24.5.31(木)	秋田市 (秋田大学)	どなたでも	15名	鎌滝准教授	
【講演会等】 「大曲自然友の会」大学訪問時講演	24.6.19(火)	秋田市 (秋田大学)	大曲自然友の会	40名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「男鹿市若美町 若美コミュニティ推進協議会」講演	24.7.17(火)	男鹿市	若美コミュニティ推進協議会	20名	野越地域防災アドバイザー		
【出前授業】 「御所野学院中学校大学訪問」時模擬授業	24.7.19(木)	秋田市 (秋田大学)	御所野学院中学校生徒	30名	水田地域防災部門長		
【講演会等】 「第13回秋田備蓄フォーラム」講演	24.7.20(金)	男鹿市	どなたでも	200名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「平成24年度北秋田地域振興局自主防災リーダー研修会 (大館市)」講演	24.7.26(木)	大館市	大館市民	45名	水田地域防災部門長		
【講演会等】 「秋田県自主防災アドバイザー養成研修」講演	24.7.26(木)	秋田市	秋田県自主防災アドバイザー候補予定者等	30名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「男鹿市教育委員会講演会」講演	24.7.27(金)	男鹿市	男鹿市内小中学校教職員	200名	水田地域防災部門長		
【講演会等】 「美郷町自主防災組織研修会」講演	24.7.27(金)	美郷町	美郷町民	100名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「平成24年度北秋田地域振興局自主防災リーダー研修会 (北秋田市)」講演	24.8.1(水)	北秋田市	北秋田市民	45名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「秋田市教育委員会研修会」講演	24.8.8(水)	秋田市	秋田市内小中学校教員	15名	水田地域防災部門長 野越地域防災アドバイザー		
【出前授業】 「横手城南高等学校における高大連携」出前授業	24.8.28(火)	横手市	横手城南高等学校生徒	20名	水田地域防災部門長		
【出前授業】 「課題研究推進(防災教育に関する研修会)」出前授業	24.9.7(金)	秋田市	浜田小学校全校児童、PTA	93名	鎌滝准教授		
【出前授業】 「横手南中学校」出前授業	24.9.12(水)	横手市	横手南中学校全校生徒	520名	鎌滝准教授		
【講演会等】 「秋田市自主防災組織総会」講演	24.9.27(木)	秋田市	秋田市内自主防災組織リーダー	30名	野越地域防災アドバイザー		
【講演会等】 「鶴岡地区私立幼稚園連合会安心・安全な幼稚園づくり支援 事業教育講演会」講演	24.10.2(火)	山形県	山形県鶴岡市 私立幼稚園教職員	55名	鎌滝准教授		
【出前授業】 「平成24年度高校生未来創造支援事業プロフェッショナル (大学教員)の活用事業」出前授業	24.10.4(木)	大館市	大館工業高校生徒	368名	水田地域防災部門長		
【講演会等】 「秋田市のまちづくりを考えるシンポジウム」パネルディスカッションパネラー	24.10.21(日)	秋田市	どなたでも	20名	野越地域防災アドバイザー		
【講演会等】 「地震防災における防災人育成シンポジウム～東日本大震災の教訓をスタートとして～」開催	24.10.30(火)	大仙市	どなたでも	257名	地域創生センター	共催：一般社団法人国立大学協会	
【講演会等】 「秋田市自主防災組織講演会」講演	24.11.3(土)	秋田市	秋田市内自主防災組織	40名	野越地域防災アドバイザー		
【講演会等】 「第2回防災教育指導者研修会」講演	24.11.6(火)	潟上市	県内各幼稚園、小・中学校 高等学校、特別支援学校 教員	400名	水田地域防災部門長		

平成24年度事業実施状況一覧

	事業名	開催時期	会場	対象者、参加者	参加者数	担当部署等	備考
地域防災部門	【講演会等】 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～(県南地区フォーラム)」パネルディスカッションコーディネーター	24.11.10(土)	横手市	県内小中高等学校教員、地域住民、学校安全ボランティア等	240名	水田地域防災部門長	
	【講演会等】 「地域防災セミナー～地域住民の手による災害に強いまちづくり～」パネルディスカッションコーディネーター	24.11.11(日)	北秋田市	どなたでも	160名	水田地域防災部門長	
	【講演会等】 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～(県北地区フォーラム)」パネルディスカッションコーディネーター	24.11.17(土)	能代市	県内小中高等学校教員、地域住民、学校安全ボランティア等	320名	水田地域防災部門長	
	【講演会等】 「地域防災フォーラム～学校における防災教育と地域連携のあり方について考える～(県央地区フォーラム)」パネルディスカッションコーディネーター	24.11.20(火)	潟上市	県内小中高等学校教員、地域住民、学校安全ボランティア等	320名	水田地域防災部門長	
	【出前授業】 「雄勝工業高等学校」出前授業	24.11.20(火)	湯沢市	雄勝工業高等学校 全校生徒	222名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「潟上市立東瀬小学校・天王小学校・天王中学校の小中連絡協議会」講演	25.1.9(水)	潟上市	東瀬小学校・天王小学校・天王中学校教員	60名	水田地域防災部門長	
	【講演会等】 「SSN秋田学生復興支援ネットワーク活動報告会」講演	25.1.19(土)	秋田市	どなたでも	20名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「全県損害保険代理店研修会」講演	25.1.25(金)	秋田市	秋田日新会	30名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「第7回自治会(町内)役員研修会」講演	25.2.24(日)	潟上市	潟上市自治会長連合会	200名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「仙北公民館主催防災講話」講演	25.3.11(月)	大仙市	あじさいキャンパスメンバー	18名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「由利本荘市大ノ道町内会22班3組」防災講演	25.3.16(土)	由利本荘市	由利本荘市大ノ道町内会 員	20名	鎌滝准教授	
	【講演会等】 「平成24年度自主防災組織育成指導者研修会」講演	24.12.17(月)、12.20(木)、 25.1.18(金)、1.21(月)、1.23(水)、 1.28(月)、1.30(水)、2.1(金)	鹿角市、大館市、大仙市、羽後町、由利本荘市、秋田市、にかほ市、横手市	県内各市町村の町内会長、防災担当者等	474名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
	県及び市町村への防災施策に関する指導・助言	【委員会参画】 秋田県地震被害想定調査委員会および専門部会	通年	秋田県			水田地域防災部門長 鎌滝准教授
【委員会参画】 にかほ市地域防災計画策定等委員会		通年	にかほ市			水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
【委員会参画】 秋田県防災教育推進委員会		通年	秋田市			水田地域防災部門長	
【委員会参画】 秋田県再生エネルギー等導入推進臨時対策事業評価委員会		通年	秋田県			水田敬彦	
【委員会参画】 横手市総合雪対策基本計画策定委員会		通年	横手市			水田地域防災部門長	
【自治体等事業参画】 潟上市防災訓練メニューにおける指導		24.5.8(火)	潟上市			水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
【自治体等事業参画】 青少年科学の祭典出展		24.7.28(土) ～ 7.29(日)	秋田市	小中学生	50名	水田地域防災部門長 鎌滝准教授 野越地域防災アドバイザー	
【自治体等事業参画】 男鹿市ジオパーク学習センター地震防災パネル作成		24.8.1(水)	男鹿市			水田地域防災部門長 鎌滝准教授	
【委員会参画】 美郷町まちづくり交付金評価委員会		24.12月 ～ 25.3.31	美郷町			鎌滝准教授	
【委員会参画】 秋田県沿岸津波対策検討会		25.1.11(金) ～ 3.31(日)	秋田県			鎌滝准教授	
【講演会等】 にかほ市津波浸水被害想定説明会		25.2.18(月)、19(火)、22(金)	にかほ市	金浦地区、仁賀保地区、象潟地区	200名	鎌滝准教授	
【講演会等】 産学活性化テクノセミナー講演	25.2.20(水)	大館市	秋田県北部の企業	30名	水田地域防災部門長		

【平成24年度 地域創生センター運営委員】

番号	職名	氏名	任期	備考
1	委員長 副学長 (評価・社会貢献担当) 地域創生センター長	中田 真一	規程第3条第1号, 2号 在任期間	
2	運営委員	教育文化学部 教授	篠原 秀一 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
3		医学系研究科 教授	河谷 正仁 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
4		工学資源学研究科 教授	神谷 修 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
5		横手分校長	根岸 均 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
6		北秋田分校長	濱田 純 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
7		地域創生センター 専任教員	松岡 昌則 平成23年6月1日～平成25年3月31日	
8		〃	水田 敏彦 平成23年9月1日～平成25年3月31日	
9		〃	鎌滝 孝信 平成23年10月1日～平成25年3月31日	
10		学長補佐(地域創生担当)	鈴木 雅史 平成24年6月1日～平成26年5月31日	

【地域創生課】

職名	氏名	備考
地域創生課長	笹村 和雄	
地域協働部門総括主査	澁谷 隆男	
地域協働部門総括主査	藤澤 裕子	
地域防災部門主査	利 勝利	
地域協働部門	松井 良枝	
地域協働部門	本多 壮一郎	
地域防災部門	小番 未斗理	
地域協働部門	内田 佳菜	
地域協働部門	能美 徹	

社会貢献事業で御協力いただいた学内教職員の方々

所属等		氏名
教育文化学部教科教育学講座	教授	佐々木雅子
教育文化学部教科教育学講座	教授	杜威
教育文化学部教科教育学講座	教授	藤田静作
教育文化学部教科教育学講座	准教授	川村教一
教育文化学部音楽教育講座	准教授	齋藤洋
教育文化学部音楽教育講座	准教授	武内恵美子
教育文化学部音楽教育講座	准教授	爲我井壽一
教育文化学部スポーツ・健康教育講座	教授	高崎祐治
教育文化学部発達教育講座	准教授	紺野祐
教育文化学部発達教育講座	准教授	山名裕子
教育文化学部教育心理学講座	教授	高田知恵子
秋田大学副学長／教育文化学部政策科学講座	副学長(人事適正化・総合技術部・男女共同参画・附属学校園)・教授	池村好道
教育文化学部生活者科学講座	教授	長沼誠子
教育文化学部生活者課学講座	准教授	西川竜二
秋田大学教育文化学部生活者科学講座	准教授	池本敦
秋田大学教育文化学部文化環境講座	教授	渡部育子
教育文化学部日本・アジア文化講座	特別教授	佐藤稔
教育文化学部日本・アジア文化講座	准教授	高村竜平
教育文化学部欧米文化講座	准教授	大西洋一
教育文化学部国際コミュニケーション講座	教授	三宅良美
教育文化学部自然環境講座	教授	林信太郎
教育文化学部環境情報講座	准教授	本谷研
教育文化学部環境情報講座	教授	上田晴彦
教育文化学部基礎数理講座	教授	宇野力
教育文化学部技術部基礎技術系	技術長	成田堅悦
教育文化学部技術部基礎技術系	技術専門員	毛利春治
教育文化学部技術部基礎技術系	技術職員	山下清次
教育文化学部附属教育実践研究支援センター	教授	浦野弘
秋田大学理事／医学系研究科医学専攻公衆衛生学講座	理事(教育・学生・入試担当)・教授	本橋豊
医学系研究科医学専攻医科学情報学・国際交流学講座	教授	中村彰
医学系研究科医学専攻医科学情報学・国際交流学講座	准教授	片平昌幸
医学系研究科保健学専攻基礎看護学講座	准教授	佐々木久長
医学系研究科保健学専攻母子看護学講座	教授	兒玉英也
医学系研究科保健学専攻地域・老年看護学講座	講師	長岡真希子
医学系研究科保健学専攻理学療法学講座	准教授	佐竹将彦
医学系研究科保健学専攻理学療法学講座	助教	上村佐知子
医学系研究科保健学専攻理学療法学講座	助教	若狭正彦
医学系研究科保健学専攻理学療法学講座	助教	齊藤明
医学系研究科保健学専攻作業療法学講座	教授	新山喜嗣
医学部附属病院循環器内科	講師	小坂俊光
医学部附属病院看護部	看護部長	高島幹子
医学部附属病院看護部	看護師長	佐々木京子
医学部附属病院看護部	看護師長	富田典子
医学部附属病院看護部	副看護師長	中村美央
工学資源学研究科地球資源学専攻	助教	坂中伸也
工学資源学研究科地球資源学専攻	助教	綱田和宏
工学資源学研究科環境応用化学専攻	教授	寺境光俊
工学資源学研究科環境応用化学専攻	講師	井上幸彦
工学資源学研究科環境応用化学専攻	教授	中田真一
工学資源学研究科環境応用化学専攻	准教授	加藤純雄
工学資源学研究科環境応用化学専攻	助教	小笠原正剛
工学資源学研究科環境応用化学専攻	助教	松本和也
工学資源学研究科環境応用化学専攻	教授	柴山敦
工学資源学研究科環境応用化学専攻	准教授	高橋博
工学資源学研究科生命科学専攻	助教	藤原一彦

所属等		氏名
工学資源学研究科材料工学専攻	教授	石尾俊二
工学資源学研究科材料工学専攻	准教授	佐藤芳幸
工学資源学研究科材料工学専攻	教授	大笹憲一
工学資源学研究科材料工学専攻	講師	棗千修
工学資源学研究科情報工学専攻	講師	横山洋之
工学資源学研究科情報工学専攻	助教	藤原克哉
工学資源学研究科機械工学専攻	教授	中村雅英
工学資源学研究科機械工学専攻	教授	田子真
工学資源学研究科機械工学専攻	准教授	長谷川裕晃
工学資源学研究科機械工学専攻	教授	長縄明大
工学資源学研究科電気電子工学専攻	准教授	水戸部一孝
工学資源学研究科電気電子工学専攻	講師	KABIR MAHMUDUL
工学資源学研究科電気電子工学専攻	准教授	山口留美子
工学資源学研究科電気電子工学専攻	講師	河村希典
工学資源学研究科電気電子工学専攻	准教授	田中元志
工学資源学研究科土木環境工学専攻	准教授	荻野俊寛
工学資源学研究科ライフサイクルデザイン工学専攻	教授	玉本英夫
工学資源学研究科ライフサイクルデザイン工学専攻	准教授	佐藤正志
工学資源学研究科ライフサイクルデザイン工学専攻	准教授	山口邦彦
工学資源学研究科附属環境資源学研究センター	准教授	菅原透
工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	センター長・教授	神谷修
工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	副センター長・助教	和田豊
工学資源学研究科附属ものづくり創造工学センター	技術系補佐員	齊藤亜由子
工学資源学研究科技術部	総括技術長	川辺金光
工学資源学研究科技術部	技術専門員	千田恵吾
工学資源学研究科技術部	副総括技術長	葦原文夫
工学資源学研究科技術部	技術専門員	永作清
工学資源学研究科技術部	技術専門員	石川広美
工学資源学研究科技術部	技術専門職員	田村オリエ
工学資源学研究科技術部	技術職員	小松和三
工学資源学研究科技術部	技術職員	赤田拓丈
工学資源学研究科技術部	技術職員	加藤隆一
工学資源学研究科	非常勤講師	野村正幸
工学資源学研究科鉱業博物館	講師	西川治
工学資源学研究科事務部博物館担当	主査	中村勝
附属図書館	館長	立花希一
図書館・情報推進課	総括主査	高橋寛
図書館・情報推進課	総括主査	飯沼邦恵
図書館・情報推進課	主査	柏倉久美子
総合情報処理センター	センター長	今野和彦
総合情報処理センター	准教授	吉崎弘一
総合情報処理センター	技術専門職員	正木忠良
総合情報処理センター	技術専門職員	小林俊央
総合情報処理センター	技術職員	鷲谷貴洋
総合情報処理センター	技術系補佐員	大友幹子
ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー	特任助教	芳賀一寿
ベンチャーインキュベーションセンター	センター長	西田眞
ベンチャーインキュベーションセンター	准教授	丹野剛紀
ベンチャーインキュベーションセンター	助教	中島佐和子
ベンチャーインキュベーションセンター	技術職員	柴田傑
国際交流センター	准教授	西田文信

平成24年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成24年度秋田大学特別コンサート

がんばろう東北！

～秋田の演奏家による楽しい音楽会～



第1回 5月13日(日)
夢と希望

寺川真希子、湯原美、高山康博、松本新、秋田清樹、丸山ちほ、山田純子（以上ピアノ）、石川佳代、宮原早美、横山修佳、宮原久美子、高尾井秀一（以上声楽）、高橋政博（フルート）、神原謙一（ギター）、平文直（マンドリン）

第2回 7月8日(日)
愛と絆

滝方直幸、大山真子、高橋美、塚本美奈、横山修佳（以上ピアノ）、小野真弓（フルート）、小野真弓、高橋美希子、野井保枝、土城寛人、三河由美子、清水美智（以上声楽）、加賀有朋純子（マリンバ）

第3回 10月14日(日)
勇気と力

大谷祥子、佐藤和規、中山静子、塚本美奈、高山由美（以上ピアノ）、大沢洋子、小野純子、長谷川麗美子（以上声楽）、宮原清隆（クラリネット）、高野由、高山久直（以上フルート）、北嶋美子（リコーン）、藤原キズ子（チェロ）

皆様のご来場を心からお待ちしております。

入場無料

会場内に観覧券を授与します。
※お申し込みは、日本赤十字社秋田支部を通じてお申し込みください。

秋田大学
60周年記念ホール
14:00開演
(13:30開場)

定員 先着250名
※直接会場にお越しください。

秋田大学
地域創生課
TEL 018-899-2270 FAX 018-899-2162
E-mail: yuakanshou@yuakanshou.ac.jp
秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

詩は美しい、ましてや英語で書かれた詩など一と思われるかもしれませんが、真実の輝きとなるポイントを指摘して読めば、豊かな英文学の世界が目の前に広がります。本講座は、昨年の同タイトルが好評の第二弾として、19世紀以降の英詩を選びます。様々な内容と形式の英詩を対訳で読みながら、ひとつひとつの言葉も味わいつつ、それぞれの詩の特徴を探っていきます。英文学の柱である詩を通じて、異国文化に触れてみましょう。

平成24年度秋田大学公開講座

英語の詩を読んでみませんか？

—対訳で味わう英詩の世界と英国文化 II—

第1回 6月29日(金)
高詩麗のための基礎知識

第2回 7月6日(金)
ロマン主義時代の政治詩を読む

第3回 7月13日(金)
ヴィクトリア朝の初期詩を読む

第4回 7月19日(木)
第一次世界大戦後の戦争詩を読む

第5回 7月27日(金)
20世紀前半のモダン派詩を読む

会場
カレッジプラザ
秋田大学1F（11-12号館2F）

日時
平成24年6月29日(金)～7月27日(金)
18:30～20:00
毎週全曜日（5回シリーズ）
※第4回の7月19日(木)の開催となります。

対象
どなたでも（定員：30名）
※定員は、先着順となります。

受講料 2,500円
※秋田大学が主催する講座のためです。

お申し込み方法
電話・FAX・Eメールでお申し込みください。



講師
秋田大学教育文化学部
英文文化講座
大西洋一准教授
Professor Patrick of Studies
Writing Practitioner (Informed 11940)
Dr. Joseph Bennett

秋田大学 地域創生課
TEL 018-899-2270 FAX 018-899-2162
E-mail: yuakanshou@yuakanshou.ac.jp
秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成24年度秋田大学公開講座

大人のものづくり

機械工作や電子工作を通して「ものづくり」の魅力を感じてみませんか。
本講座では、機械工作や電子工作に興味がある大人の方に向けて、講義と実習を通して、ものづくりに関する技術をわかりやすく解説します。機械工作の経験がない方も、科学技術に触れ、実際に体験することで「ものづくり」の楽しさを体験しましょう。女性の方やお子さんの参加も大歓迎です。

第1回 8月30日(木)
「金ラジオの製作 —音響、理論、及び製作の概要—」

第2回 9月6日(木)
「金ラジオの製作 —製作と実習—」
秋田大学工学資源学研究所機械工学専攻 長嶋 明大
神谷 悠、秋田 昌、加藤 隆一、宮澤 聖由子

第3回 9月13日(木)
「オープン回路の基礎 —機械工学における位置づけ、概要—」

第4回 9月20日(木)
「オープン回路の基礎 —増幅及び演算回路の製作—」
秋田大学工学資源学研究所機械工学専攻 長嶋 明大
秋田大学工学資源学研究所技術部 小松 和三

第5回 9月27日(木)
「マシンングセンターによるものづくりとCADの操作 —概要と基本操作—」

第6回 10月4日(木)
「マシンングセンターによるものづくり —ネームプレートの加工—」
秋田大学工学資源学研究所技術部
長嶋 文夫、永作 茂、石川 広高、田村 オリエ、小松 和三、秋田 純太

時間 18:30～20:00
会場 秋田大学手形キャンパス 工学資源学部2号館
対象：どなたでも（定員 20名）
※定員に達し次第、締切とします。
受講料：3,000円(全6回参加)
※ 全国出席が原則ですが、あらかじめ欠席の手定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

お申込み・お問い合わせは
秋田大学
地域創生課 TEL 018-899-2270 FAX 018-899-2162
E-mail: yuakanshou@yuakanshou.ac.jp
秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp

平成二十四年度秋田大学公開講座

長唄の魅力味わう

第一回 九月二日(日)
三味線音楽家について

第二回 九月十六日(日)
長唄の歴史と特徴

第三回 九月二十三日(日)
長唄の代表曲

第四回 九月二十九日(土)
レクチャーコンサート

講師
秋田大学教育文化学部音楽教育専攻
准教授 武内恵美子

長唄演奏(第四回)
長嶋 三味線方

今藤政太郎 他

定員 一〇〇名
※定員に達し次第締め切りいたします。

受講料 二〇〇〇円(全四回参加)
※全国出席が原則ですが、あらかじめ欠席の手定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

対象 どなたでも

会場 カレッジプラザ
秋田大学1F（11-12号館2F）

時間 一四:〇〇～一六:一〇

秋田大学 地域創生課
TEL 018-899-2270 FAX 018-899-2162
E-mail: yuakanshou@yuakanshou.ac.jp
秋田大学HP: http://www.akita-u.ac.jp
主催：秋田大学

長唄は、三味線音楽の中でも非常に人気のあるジャンルです。しかし残念ながら、秋田ではなかなか長唄に親しむ機会はありません。
今回は、長唄についての基礎的なポイントをお話しした後、最終回は特別に、平成21年度日本芸術振興会賞の、多数受賞されている長唄三味線方演奏家今藤政太郎を招いたレクチャーコンサートを企画しました。聞かずに一流の演奏を味わい、語を聞けるまたとない機会ですので、ぜひご参加ください。

平成24年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成24年度秋田大学公開講座

総合自殺予防学 インテンシブコース

～地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進～

秋田大学では平成19年度より、大学院レベルの自殺予防学コースを開講、皆様からの御好評をいただき、今年度も山下によりインテンシブコースを実施することになりました。
地域等で対策に努めている実務の専門家を対象に、今後の自殺予防に役立つことを目指し開催いたします。今年度は「地域におけるメンタルヘルスプロモーションの推進」をテーマとして、幅広い分野の講師を招き、秋田における心の健康づくり・自殺予防対策の地域・福祉における実務を考えたいと思います。
（主催：秋田大学医学部研究科保健学専攻 地域創生課 地域創生学講座）

<p>第1回 10月5日(金) 「地域住民エンパワメント： 絆育力（きずな育む力）を紡ぐ」 秋田大学大学院人間総合科学研究科 国際看護ケア研究室 教授 安南 勲江</p>	<p>第3回 10月19日(金) ワークショップ「地域における メンタルヘルスプロモーションの推進」 秋田大学理事・副学長 本橋 豊 秋田大学大学院医学系研究科保健学専攻 基礎看護学講座 准教授 佐々木 久美</p>
<p>第2回 10月12日(金) 「職場のメンタルヘルスの最新動向」 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻健康科学大講座精神保健分野 教授 川上 豊人</p>	<p>第4回 11月2日(金) 「認知症とその介護—介護負担とうつ—」 秋田大学大学院人間総合科学研究科 精神科医学分野 教授 朝田 義</p>

日時：15:00～17:00
定員：30名
※定員に達し次第締め切りいたします。
会場：カレッジプラザ
(秋田市中通2丁目1-51 明徳ビル2F)
受講料：2,000円(全4回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

対象：保健師、行政担当者、
メンタルヘルスサポーター等

お申込み・お問い合わせは
秋田大学
地域創生課 TEL:018-889-2270
FAX:018-889-3162
E-mail: shakoken@ms.uakita-u.ac.jp
秋田大学HP: http://www.uakita-u.ac.jp

平成24年度秋田大学公開講座

文化の中の インドネシア語

インドネシア語は世界で4番目に多くの人が話されていることばであり、毎年約1億ずつに達する
人口でもあります。本講座ではインドネシア語を学ぶための、1年間、3ヶ月にわたる長期、短期
無休の紹介を文と音で「改革版」の新しいインドネシア語にいたします。

第1回 10月14日(日) インドネシア語とは
第2回 10月21日(日) インドネシアの舞踊
第3回 10月28日(日) インドネシアの映画事情
第4回 11月8日(土) ネックバルター
※第4回のみ11月8日(土)の開催となります。

講師 教育文化庁国際コルネリアン講座
三宅 良美 教授

時間：14:30～16:00
会場：カレッジプラザ（秋田市中通2丁目1-51）
対象：どなたでも（定員20名）
※定員に達し次第、締め切りいたします。
受講料：2,000円（全4回参加）
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

お申込み・お問い合わせは
秋田大学 地域創生課 TEL:018-889-2270 FAX:018-889-3162
E-mail: shakoken@ms.uakita-u.ac.jp 秋田大学HP: http://www.uakita-u.ac.jp

平成24年度秋田大学公開講座

睡眠について

—保健学の視点から—

<p>第1回 11月7日(水) 睡眠の生理学 —快適な睡眠確保に向けて— 秋田大学医学系研究科保健学専攻 母子看護学講座 教授 兒玉 英也</p>	<p>第3回 11月21日(水) 心地よい睡眠を得るために 秋田大学医学系研究科保健学専攻 地域・老年看護学講座 講師 長岡 真希子</p>
<p>第2回 11月14日(水) 不眠の臨床と睡眠薬の使用法 秋田大学医学系研究科保健学専攻 作業療法学講座 教授 新山 喜嗣</p>	<p>第4回 11月28日(水) 不眠症の方への 睡眠教育と認知行動療法（CBT） 秋田大学医学系研究科保健学専攻 理学療法学講座 助教 上村 佐知子</p>

日時：18:30～20:00
対象：どなたでも
定員：30名
※定員に達し次第締め切りいたします。
受講料：2,000円(全4回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

お申込み・お問い合わせは
秋田大学 地域創生課
TEL:018-889-2270 FAX:018-889-3162
E-mail: shakoken@ms.uakita-u.ac.jp
秋田大学HP: http://www.uakita-u.ac.jp

あなたやあなたのご家族はよく寝れていますか？よく寝れないのは困ったことです。睡眠は健康と密接に関係があります。医師の観点、看護師の立場、臨床心理士の視点から睡眠についてお話ししたいと思います。

平成24年度秋田大学公開講座

声楽講座 —発声法と歌唱法—

岡本太郎作曲の「花」など、春を題材にした楽曲を中心に取り上げ、基礎的な発声法や歌唱法を学習します。伸びやかな声が出るように学習を進めながら、共に学び合い、交流し、歌う喜びや楽しさを感じましょう。

第1回 3月3日(日) 発声法
第2回 3月10日(日) 歌唱法①
第3回 3月17日(日) レクチャーコンサート「春の調べ」
第4回 3月24日(日) 歌唱法②

講師 秋田大学教育文化学系音楽教育講座 准教授 爲我井 壽一
伴奏 ピアニスト 富樫 彰子（第3回）

時間 14:00～16:00
定員 15名
会場 秋田大学
インフォメーションセンター
(秋田市千秋学園1-1)

受講料 2,000円(全4回参加)
※全回出席が原則ですが、あらかじめ欠席の予定がある場合は、お申し込みの際にお知らせください。

お申込み・お問い合わせ
秋田大学
地域創生課 TEL:018-889-2270 FAX:018-889-3162
E-mail: shakoken@ms.uakita-u.ac.jp
秋田大学HP: http://www.uakita-u.ac.jp

主催：秋田大学

平成24年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成24年度
メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

日時 平成24年10月17日（水） 15時30分～17時（開場15時）
場所 横手交流センターY2ぶらざ3階 市民活動スペース（秋田大学横手分校）
対象 どなたでも（定員：100名）**参加費** 無料 ※要申込
申込 電話、FAX、E-mail、でお申込みください。（①～④をお知らせください）
①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④住所（午後、高層階の開催案内を希望する方）

話題
健康長寿社会のために
—あなどれない高血圧：高血圧管理と運動—

サイエンスカフェ・マスター
秋田大学 大学院医学系研究科長・教授 澤田 賢一

話題提供者
秋田大学医学部附属病院
循環器内科・呼吸器内科
講師 小坂 俊光

テーマ
生活習慣の修正による
高血圧管理

秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座
教授 高崎 裕治

テーマ
健康長寿と運動

高血圧症に代表される生活習慣病は文字通り生活習慣の修正によって治療の効果が得られます。生活習慣の修正は食事、適正な休養の確保、運動、禁煙などがあげられますが、この中でも運動はきわめて重要な意味をもちます。高血圧症はほとんど症状がないままに、ひそかに血管をむしばみ、脳卒中や心筋梗塞などの血管病を引き起こすため「サイレント・キラー 静かなる殺し屋」と呼ばれており、決してあなどることのできない病気です。今回は、血圧をコントロールして元気で長生きするために、生活習慣の修正、特に運動の大切さについてみなさんと共に考えてみたいと思います。

最新の医学研究の成果を分かりやすく解説する公開講座+自由に意見交換を行うイベントとして毎年、医学系研究科が行ってきたものです。今回は新たな加味として、教育文化学部の先生とのコラボにより「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」として次の次元へと踏み出します。お楽しみ物も準備しておりますので、お気軽にお申し込みください。

主催 秋田大学横手分校
後援 横手市

お申込み
お問合せ
TEL: 0186-23-2323
E-mail: yamanakos@akita-u.ac.jp

平成24年度
メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト

日時 平成24年11月21日（水） 15時30分～17時（受付15時10分～）
場所 北秋田市秋田北鷹高等学校大講堂（北秋田市伊勢町1番1号）
対象 どなたでも（定員：220名）**参加費** 無料 ※要申込
申込 11月19日（月）まで、電話・FAX・E-mail、でお申込みください。
①氏名 ②電話番号 ③年齢 ④住所（午後、高層階の開催案内を希望する方）を
お知らせください。

◆ 当日、14：00からは同じ会場でお秋田分校教養セミナー「秋田のことば—老人（シニア）と若者の—」を開催します。

話題
健康長寿社会のために
—あなどれない高血圧：高血圧管理と運動—

サイエンスカフェ・マスター
秋田大学 大学院医学系研究科長・教授 杉山 俊博

話題提供者
秋田大学医学部附属病院
循環器内科・呼吸器内科
講師 小坂 俊光

テーマ
生活習慣の修正による
高血圧管理

秋田大学教育文化学部
スポーツ・健康教育講座
教授 高崎 裕治

テーマ
健康長寿と運動

高血圧症に代表される生活習慣病は文字通り生活習慣の修正によって治療の効果が得られます。生活習慣の修正は食事、適正な休養の確保、運動、禁煙などがあげられますが、この中でも運動はきわめて重要な意味をもちます。高血圧症はほとんど症状がないままに、ひそかに血管をむしばみ、脳卒中や心筋梗塞などの血管病を引き起こすため「サイレント・キラー 静かなる殺し屋」と呼ばれており、決してあなどることのできない病気です。今回は、血圧をコントロールして元気で長生きするために、生活習慣の修正、特に運動の大切さについてみなさんと共に考えてみたいと思います。

最新の医学研究の成果を分かりやすく解説する公開講座+自由に意見交換を行うイベントとして毎年、医学系研究科が行ってきたものです。今回は新たな加味として、教育文化学部の先生とのコラボにより「メディカル・サイエンスカフェ・ネクスト」として次の次元へと踏み出します。お楽しみ物も準備しておりますので、お気軽にお申し込みください。

主催 秋田大学北秋田分校
後援 北秋田市

お申込み
お問合せ
TEL: 0186-23-2323
E-mail: shuoken@akita-u.ac.jp

中学生科学教室
カラフル・ケミストリー
—色と化学のふしぎな関係—

化学反応と聞くと難しく感じますが、反応の中にはとてもきれいな色や光を楽しめるものがたくさんあります。今回の教室では実際に実験を行い、きれいな色が次々と現れる様子を楽しみながら色とは何か、化学反応とは何かを学んでいきます。

先生は……
秋田大学大学院工学資源学研究科
いのうえ ゆきこ
井上 幸彦 先生

実験は……
光の色と物の色の関係について解説します。
実験で蛍光インクを作ってみよう！

対象：中学生の皆さん（定員20名）
会場：横手高等学校「青雲館」
（横手市前町二番町10番1号）
日時：平成25年1月8日（火）13:00～14:30
持参する物：内履き、筆記用具

参加無料！
要申込！

事前に申し込みが必要です！お気軽にお電話ください。
主催：秋田大学横手分校

お申込
お問合せ
秋田大学 横手分校
TEL: 0186-23-2323 FAX: 0186-23-2323
E-mail: yamanakos@akita-u.ac.jp

平成24年度秋田大学北秋田分校教養セミナー
北秋田市高層大会体講座 & 一般公開講座

ブータン王国から学ぶこと
～真の幸せとは～

2011年に、日本との国交樹立25周年を迎えたブータン王国。ブータン王国では、国民総幸福量（GNH）という独自の考え方を国家の指標として打ち出し、現在、世界中から注目を集めています。本講座では、ブータン王国の歴史や文化、政教や日本との関わりなどについて解説し、ブータン王国への理解を深めることで「真の幸せ」とは何かを考えていきます。

講師
秋田大学国際交流センター
准教授 西田 文信

◆ 参加無料・要申込

日時 平成24年9月20日（木）
14:00～15:50

会場 北秋田市文化会館
（北秋田市村木町2-3）

定員 250名
（高層大学生、一般市民）

申込受付 9月14日（金）まで
電話・FAXでお申し込みください。

申込・お問い合わせ
北秋田市教育委員会 生涯学習課
TEL: 0186-62-1130
FAX: 0186-62-1669

主催：秋田大学北秋田分校、北秋田市教育委員会

平成24年度社会貢献事業ポスター（一部）

平成二十四年度 第二回北秋田分校教養セミナー

秋田のことば

―老人(シニア)と若者の―

講師 特別教授 佐藤 稔
秋田大学教育文化学部 日本・アジア文化圏

地域のことばは生活を支え、人を育む大切なものです。言葉を理解し、人々と通じ合うことは生活の基本です。それは、人を尊重し、地域文化に愛着を感じることに通じます。ところが、今は「老若」の隔でことばの違いが見られるようになりました。世代間のことばの壁を乗り越えて、秋田のことばの現状を知った上で効果的に通じ合うようにしたいものです。本講座では、秋田のことば、特にシニア世代と若者に着目して解説します。

参加無料 要申込

日時 十一月二十一日(水)
一四:〇〇～一五:一〇
（受付 一三:一〇～一三:三〇）

会場 北秋田市
秋田北鷹高等学校大講堂
（北秋田市伊勢町一丁目）

定員 二〇〇名（対象はどなたでも）

申込 十一月二十日(火)まで
電話・FAX・メールでも申し込みいただけます。
※申し込み締切は、お申し込み15時30分前です。メール・FAX・メールでの申し込みは、受付時間内（受付時間外は、お申し込みの可否は、お問い合わせください）とさせていただきます。

共催・秋田大学北秋田分校、北秋田教育委員会、秋田北鷹高等学校

お申込み・お問い合わせは
秋田大学北秋田分校 ☎0186-62-1111 ☎0186-63-2586
shakoken@jmu.akita-u.ac.jp

おうちのひといっしょに行こう！

平成24年度

秋田大学 子ども見学デー

～未来の自分を探しに行こう！～

平成24年8月9日(木)
9時30分～11時40分

参加は無料！
事前申込が必要だよ！

集合場所：秋田大学60周年記念ホール
（教育文化学部3-145講義室）

対象：小・中学生
（保護者同伴で参加してください）

募集人数：230名（保護者含む）

申込開始：平成24年7月3日(火)
※定員になり次第、締切いたします。
※申込開始日以前の申し込みは無効となります。
※ご注意ください。

プログラム：コースに分かれて見学

- 教育文化学部
- 医学部
- 工学資源学部
- メディアイノベーションセンター
- 総合情報処理センター
- 附属図書館
- 附属監獄博物館

お申込み・お問い合わせは **秋田大学 地域創生課** ☎018-889-2270 ☎018-889-3162
E-mail: shakoken@jmu.akita-u.ac.jp
秋田大学HP: <http://www.akita-u.ac.jp/>

平成24年度秋田大学東京サテライト教養セミナー

ブータン王国から学ぶこと

～真の幸せとは～

参加無料 要申込
平成25年2月8日(金) 18:30～20:00
（受付 18:00～）

2011年に日本との国交成立25周年を迎えたブータン王国。ブータン王国では、国民総幸福量（GNH）という独自の考え方を国家の指標として打ち出し、福祉、教育を中心に注目を集めています。そのブータン王国唯一の国立大学、王立ブータン大学と秋田大学は2012年7月に日本国内的大学では初となる大学間国際交流協定を締結しました。本セミナーでは、ブータン王国の歴史や文化、産業や日本との関わりなどについて対談形式で解説し、ブータン王国への理解を深めることで「真の幸せ」とは何かを考えていきます。

対談・テーマ「ブータン今昔」

秋田大学国際交流センター
准教授 西田 文信

「ブータン 富強王国への道」
「ブータンの愛と魂」 著者
山本 けいこ

会場 東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京
2階多目的室3（東京都港区芝浦3-1-3-6）

申込締切日・定員 2月7日(木)まで・定員48名
電話・FAX・E-mailでお申し込みください。

申込・お問い合わせ 秋田大学地域創生課
〒010-8502 秋田市手形字通町1-1-1
TEL 018-889-2270 FAX 018-889-3162
E-mail: shakoken@jmu.akita-u.ac.jp

秋田大学東京サテライトオフィス
〒106-0023 東京都港区芝浦3-3-6
東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京
2階606号室
TEL/FAX 03-5440-9104
E-mail: tikyo@jmu.akita-u.ac.jp

平成24年度 特別「日本明生シンポジウム

地震災害における防災人育成シンポジウム

～東日本大震災の教訓をスタートとして～

主催：東京工業大学 東京工業大学防災センター、秋田大学 地域創生センター、秋田大学 防災センター、秋田大学 防災センター、秋田大学 防災センター

平成24年
日時 10月30日(火) 13:30～16:30

会場 大崎市大曲市民会館 小ホール（秋田県大曲市大曲02-002-0166-50）

プログラム

受付 13:00～
開会 13:30

開会挨拶：秋田大学長 吉村 真、大曲市長 栗林 次美

第1部 基調講演

基調講演1 13:40～14:20
「災害と文化」 秋田大学専任教授・監本真作 西木 正明
基調講演2 14:20～15:00
「現場主義からの被災地後方支援」 岩手県造形市長 本田 敏秋

第2部 パネルディスカッション 15:10～16:30

パネリスト：秋田大学専任教授・監本真作 西木 正明
岩手県造形市長 本田 敏秋
秋田県大曲市長 栗林 次美
秋田県大曲市総務部長兼防災管理監 郡山 茂樹
秋田県大曲市在住ボランティア 大庭由 孝文

コーディネーター：秋田大学地域創生センター地域防災部門長、准教授 水田 敏彦

閉会 16:30

秋田大学副学長（評価・社会貢献担当）/地域創生センター長 中田 真一

お申込み・お問い合わせ先

TEL 018-889-2844
FAX 018-889-3162
E-mail: hounai-ed@jmu.akita-u.ac.jp
HP <http://www.akita-u.ac.jp/>

主催：国立大学法人秋田大学
共催：大崎市一般社団法人国立大学協会
秋田大学HP: <http://www.jmu.ac.jp/infocenter/2012.html>



平成24年度 秋田大学地域創生センター一年報

秋田大学地域創生センター 編集・発行

平成25年11月

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1番1号

TEL 018-889-2270

FAX 018-889-3162

E-mail shakoken@jimu.akita-u.ac.jp